



～ごみゼロ・循環型社会めざして～

活動推進フォーラム

年次報告書（2015 年版）



平成 27 年 7 月

3 R 活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

目 次

	ページ
I 理事会・総会等	1
1 理事会・総会	1
2 企画・運営委員会	23
II 組織・規約	24
1 役員	24
2 事務局	24
3 会員	25
4 3 R活動推進フォーラム規約	26
5 3 R活動推進フォーラム企画・運営委員会設置要領	27
6 3 R活動推進フォーラムについて	28
III 平成 26 年度事業概要	32
1 第 9 回 3 R推進全国大会	32
2 3 R促進ポスターコンクール	42
3 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦	56
4 環境にやさしい買い物キャンペーン	58
5 連携・協働事業	63
6 広報・普及事業	73
7 ガイドラインに沿った Rマーク表示の普及促進	75
8 会員サービスの充実	76

I 理事会・総会等

平成 27 年度理事会及び総会は、平成 27 年 5 月 18 日（金）に法曹会館（東京都千代田区霞が関 1-1-1）において合同で開催され、庄子真憲環境省廃棄物・リサイクル対策部企画循環型社会推進室長初め関係各省の出席の下、平成 26 年度事業報告（案）、平成 27 年度事業計画（案）などの議案が承認された。

また、理事会・総会に先立つ 3 月 23 日（月）に（公財）廃棄物・3 R 研究財団会議室にて企画・運営委員会を開催し、理事会・総会に提出する議案等について意見交換を行った。

1. 理事会・総会

（1）開会

○細田衛士会長の挨拶

・3 R 活動推進フォーラムも発足して 10 年目を迎えた。皆様のご協力により、3 R 活動推進フォーラムの事業も軌道に乗り始めてきた。

・当フォーラムの会員は、現在自治体会員が 40 都道府県と 3 政令指定都市 5 特別区、他 6 市、併せて 54 会員となり、また民間団体会員も 69 会員で、合わせて現在 123 会員となった。

環境省からも都道府県・政令指定都市に加入を呼び掛けていただき、改めて御礼申し上げます。引き続き、全都道府県及び政令指定都市等の入会を推進して参りたい。

・当フォーラムでは、毎年、3 R 推進全国大会の開催や 3 R 促進ポスターコンクールの実施などを中心に 3 R 活動の普及啓発に努めている。昨年度の第 9 回大会は環境省関東地方環境事務所及び相模原市のご協力により、10 月 29 日（水）に相模原市内の「杜のホールはしもと」で開催した。また、今年度の第 10 回大会は中部地方環境事務所及び福井県のご協力により、11 月に福井市内で開催することとしており、皆様のご協力をいただき、成功させて参りたい。

・また、当フォーラムでは会員団体との連携・協働事業に注力しており、昨年度はセミナーや研修会を 11 回開催した。今年度も、引き続き、連携・協働事業を推進して参りたい。

・本日は、事業報告・決算及び事業計画・予算等について慎重にご審議いただきたい。なお、理事会と総会は同時に開催するが、3 R に関する事業の裾野が幅広いことから、理事と会員の皆様が、一堂に会して、幅広く、より効率的に意見交換できる場といたく、理事会の役割・機能を生かしつつ一体的に運営するため、議題ごとに先に理事の皆さまのご意見をお聞きしたのち、会員の皆様にご意見をお聞きするという形で進めるので、ご協力くださるようよろしくお願い申し上げます。

○庄子真憲環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

・3 R 活動推進フォーラムの会員の皆様には、私ども日頃より大変お世話になっている。特に 3 R 推進全国大会は 3 R の普及促進のために全国各地で開催しており、昨年は相模原市で開催させていただき、今年は 11 月に福井県で開催させていただく。全国の地域で 3 R の取組を展開していくというところでは、3 R 活動推進フォーラムは皆様の大変なご尽力を頂戴している。



・ 3 R活動推進フォーラムの大きな特色は、多くの企業・業界の団体、自治体、市民団体の皆さんにご参画をいただき、3 Rの取組に関する情報発信のプラットフォームとしての役割を担っていただいている。そういった意味で、私どもも循環型社会づくり、3 Rの取組の推進を図っていく上で、これからも連携・協働の取組を進めていきたいと考えている。

・ 本日は第10回の理事会・総会ということで、節目の年になろうかと思っている。これまでの10年間も3 R推進全国大会の開催をはじめとして、大変な実績を残していただいた。これから次の10年に向けて、本日御参加の省庁、民間企業・団体、自治体、市民団体の皆さんと連携の取組をさらに進めていければと思っているので、よろしくお願い申し上げる。

(3) 来賓紹介

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長	庄子真憲氏
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室室長補佐	伊藤宏充氏
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室	田邊恭兵氏
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室	藤本脩吾氏
農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食料産業環境対策室課長補佐	牧野将士氏
経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課課長補佐	梅田英氏
経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課係長（国際・普及広報担当）	塩田大氏

(4) 出席者

◇理事・監事

19名中 代理を含めて11名（欠席者全員が委任状提出）

◇会員

会員 123会員中 39会員（欠席者のうち62会員が委任状提出）

(5) 議長の選出

細田衛士会長を議長に選出した。

(6) 議事

第1号～第3号議案について審議され、満場一致で承認された。なお、第1号議案の平成26年度収支決算については、監事を代表してスチール缶リサイクル協会の酒巻弘三専務理事から監査報告が行われた。

第1号議案 平成26年度事業報告（案）及び収支決算（案）について

第2号議案 平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

第3号議案 理事及び監事の選任について

(7) その他

平成27年度3 R推進全国大会開催地の挨拶

今年度の3 R推進全国大会開催地である福井県から安全環境部の向出真実循環型社会推進課資源循環グループ総括主任による挨拶が行われた。

<第1号議案>

平成26年度事業報告及び収支決算について

I 組織運営

1. 理事会・総会

理事会・総会を平成26年5月23日（金）に法曹会館（東京都千代田区霞が関1-1-1）で開催し、「平成25年度事業報告及び収支決算」及び「平成26年度事業計画及び収支予算」について議決した。

2. 企画・運営委員会

平成26年度企画・運営委員会を平成27年3月23日（月）に公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室で開催し、平成26年度事業報告（案）、平成27年度事業計画（案）等についてご意見をいただいた。

II 会員の強化・拡充

1. 取組

①平成26年6月30日（月）の環境省主催の全国廃棄物・リサイクル行政主管課長会議資料に3R活動推進フォーラムの紹介及び入会案内を掲載していただいた。

②平成27年1月28日（水）の環境省主催の全国都道府県及び政令指定都市等環境担当部局長会議資料に3R活動推進フォーラムへの協力をお願いを掲載していただいた。

③未入会団体等に対しては、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」を配信するなど、広報に努めた。

2. 入会状況

平成26年度には、新たに1団体（北九州市）が入会し、会員は123団体（平成27年3月31日現在）となった。

（資料2：会員名簿を参照）

III 3R推進全国大会関連事業

1. 第9回3R推進全国大会の開催

「第9回3R推進全国大会（以下、「3R推進全国大会」という。）」を平成26年10月29日（水）13時15分～17時15分に環境省、環境省関東地方環境事務所、相模原市と共に、相模原市杜のホールで開催した。なお、運営は（公財）廃棄物・3R研究財団と（株）ダイナックス都市環境研究所が行った。

（1）第9回3R推進全国大会

□開催日：平成26年10月29日（水）

□会場：相模原市杜のホールはしもと（相模原市緑区橋本3-28-1 ミウィ橋本7・8F）

□入場者数：338名

□プログラム

【第1部】記念式典

・主催者挨拶 小里泰弘環境副大臣、加山俊夫相模原市長、細田衛士3R活動推進フォーラム会長

・来賓挨拶 須田毅相模原市議会議長

-
- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰（8 企業、7 団体、1 個人）
3 R 促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞 小学生低学年・中学年・高学年の
各 1 名ずつ、計 3 名、中学生 1 名）

【第 2 部】記念シンポジウム

- ・基調講演「循環型社会の道筋を展望する」
講師：慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏
- ・特別講演「3 R とエコライフを楽しもう」
講師：シンガーソングライター（環境省 3 R 推進マイスター） 白井貴子氏
- ・特別発表「3 R を推進する元気な市民リーダーによる 3 R 劇場」
発表者：NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネットと相模原市の次世代 3 R
市民リーダーの皆さん
- ・パネルディスカッション「食べ物の“もったいない”を考えよう」
コーディネーター NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・
3 R 活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏
パネラー 相模原市廃棄物減量等推進審議会委員 宮崎由美子氏
プライムデリカ株式会社取締役 加藤幸作氏
株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役 高橋巧一氏
相模原市環境経済局資源循環部参事兼廃棄物政策課長 菅谷一夫氏
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課
循環型社会推進室長 庄子真憲氏

（2）関連イベント

①施設見学

大会当日の午前、3 つのコースで施設見学を実施し、参加者は終了後第 9 回 3 R 推進全国大会に参加した。

□日時：平成 26 年 10 月 29 日（水）9：00～12：00

□見学施設

- ・ A コース 株式会社日本フードエコロジーセンター（相模原市内） 28 名
- ・ B コース ノジマメガソーラーパーク（相模原市内） 22 名
- ・ C コース 相模原市南清掃工場（相模原市内） 27 名

② 3 R 推進展示コーナー

相模原市の市制施行 60 周年記念展示を始め主催者による展示、3 R 推進団体連絡会の 8 団体、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会、持続可能な社会をつくる元気ネット、WE 21 ジャパン、セカンドハーベスト・ジャパン等

③相模原市リサイクルフェア 2014

④環境省関東地方環境事務所による第 9 回 3 R 推進関東地方大会

2. 平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクールの実施

環境省と共催で平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクールを、以下のように実施した。

□募集期間 平成 26 年 6 月 2 日（月）～9 月 12 日（金）

□応募数	小学校低学年の部（１～２年生）	875 点
	小学生中学年の部（３～４年生）	2,601 点
	小学校高学年の部（５～６年生）	3,581 点
	中学校の部	3,232 点
	合 計	10,289 点

- 選考 ・第一次審査委員会 平成 26 年 9 月 29 日（月）（公財）廃棄物・３Ｒ研究財団
 ・第二次審査委員会 平成 26 年 10 月 2 日（木）法曹会館 3 階富士の間

□入賞 各部門で最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、佳作 10 点、4 部門計 56 点を選定

□表彰 平成 26 年 10 月 29 日（水）開催の 3 R 推進全国大会式典で各部門の最優秀賞 4 名を表
 彰した。その他の入賞者には賞状を送付した。

3. 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

環境省が実施する循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰に対して、3 R 活動推進フォーラムでは、平成 18 年度から循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について会員団体から推薦を受け、環境省に対して推薦を行っている。

平成 26 年度は、企業 3 件を推薦し、入賞した。

表彰式は、第 9 回 3 R 推進全国大会式典の席で行われ、全体で 8 企業、7 団体、1 個人が受賞した。

【3 R 活動推進フォーラム推薦の受賞者】

- <企業> 因幡環境整備株式会社（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）
 サントリー食品インターナショナル株式会社（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）
 株式会社ヤクルト本社（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）

IV 連携・協働事業

1. 循環型社会形成推進セミナー等の開催

会員団体等との連携セミナー等を 11 回にわたって開催した。

（1）環境省等との共催

①平成 26 年 10 月 16 日（木）14：00～16：00

- 名称：資源リサイクルフォーラム
 □主催：環境省、静岡県、静岡県環境衛生自治推進協会連合会、3 R 活動推進フォーラム
 □会場：静岡市民文化会館 中ホール
 □内容：・講演「我が社の環境への取組み」浜松ホトニクス株式会社
 ・事例発表「地域と共に楽しみながらエコ活動～地域資源を再認識する中から見えるエコ活動と食育～」ハートフルダイニングおんふらんす
 ・特別講演「エコとエスパルスと私～サッカーにおける 3 R 活動～」
 清水エスパルスアンバサダー 齊藤俊秀 氏

②平成 27 年 1 月 15 日（木）13：00～16：00

- 名称：循環・3 R フォーラム～食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて～
 □主催：環境省、東京都、3 R 活動推進フォーラム
 □会場：国際ファッションセンター（K F C）2 階ホール

□内容：

＜第1部＞

- ・基調講演「食品循環資源の利用状況と食品ロス削減の取組について」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

＜第2部＞事例発表

- ・事例発表1「世田谷区での食品ロス削減に向けた取組」

世田谷区清掃・リサイクル部事業課普及啓発担当

阿部浩司氏

- ・事例発表2「食品リサイクルの手法と事業紹介」

株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役

高橋巧一氏

- ・事例発表3「フードバンク活動とその役割」

株式会社廃棄物工学研究所（フードバンク岡山）主任研究員

石坂薫氏

- ・事例発表4「食品廃棄物の発生抑制とリサイクルの取組」

株式会社エコス 秘書室長

境憲一郎氏

③平成27年2月3日（火）13：30～16：30

□名称：循環・3Rセミナー～信頼とリサイクルで実現するリサイクルの輪～

□主催：環境省、相模原市、3R活動推進フォーラム

□会場：相模女子大学グリーンホール「多目的ホール」

□内容：

＜第1部＞「地域づくりから学ぶ連携・協働の事例」

- ・基調講演「循環・3Rの今後の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室

室長補佐

櫻井義夫氏

＜第2部＞事例発表

- ・事例発表1「小型家電リサイクル法に基づく相模原市の取組」

相模原市環境経済局資源循環部資源循環推進課担当課長

井上康臣氏

- ・事例発表2「神奈川県における小型家電リサイクル推進の取組」

神奈川県環境農政局環境部資源循環課グループリーダー

樋口泰久氏

- ・事例発表3「小型家電リサイクルの諸相」

株式会社リーテムP I 事業推進部チームリーダー

菅間智義氏

＜第3部＞100人パネル討論会

ファシリテーター 株式会社ダイナックス都市環境研究所所長

山本耕平氏

ナビゲーター 講演者・事例発表者

④平成27年2月9日（月）13：00～16：10

□名称：循環・3Rシンポジウム「食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて」

□主催：環境省、福井県、3R活動推進フォーラム

□会場：福井市地域交流プラザ研修室 601A B C

□内容：

＜第1部＞ 基調講演「食品循環資源の利用状況と食品ロス削減の取組」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

<第2部> 話題提供

- ・話題1「福井県における食品ロス、食品廃棄物の現状」

福井県安全環境部循環社会推進課資源循環グループ主任

河寄昭子氏

- ・話題2「循環型社会づくりにおける主体間連携等について」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

- ・話題3「食品ループの現状と今後の課題」

ユニー株式会社業務本部環境社会貢献部長

百瀬則子氏

- ・話題4「食品関連廃棄物の削減に向けて」

福井県民生活協同組合組織NW支援部課長

高井健史氏

<第3部> パネルディスカッション

コーディネーター

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

パネリスト：講師、話題提供者

⑤平成27年2月12日（木） 13：00～16：35

□名称：循環・3Rシンポジウム～資源循環や廃棄物のCO₂削減について考える～

□主催：環境省、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3R活動推進フォーラム

□共催：さいたま市

□会場：さいたま市浦和コミュニティセンター 第15集会室

□内容：

<第1部> 基調講演「各リサイクル法の今後の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

<第2部> 話題提供「3R行動の見える化ツールの活用や地域活動事例等」

- ・話題1「市民、事業者、行政の連携による食や資源のエコライフ」

NPO法人川口市民環境会議代表理事

浅羽理恵氏

- ・話題2「リユース食器使用によるCO₂削減」

NPO法人スペース・ふう理事長

永井寛子氏

- ・話題3「雑紙の資源化による可燃ごみの削減」

熱海市市民生活部協働環境課生活環境室長

山田賢二氏

- ・話題4「さいたま市におけるごみ減量化の現状と課題」

さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課長

島村和久氏

<第3部> パネルディスカッション「資源循環やCO₂削減について」

コーディネーター：

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

パネラー：講師、話題提供者

⑥平成27年3月11日（水） 13：00～16：00

□名称：循環・3R推進セミナー～循環・3Rの社会形成に向けて、廃棄物のもったいないを考える～

□主催：環境省、和歌山県、3R活動推進フォーラム

□会場：和歌山県自治会館 2階大会議室

□内容：

＜第Ⅰ部＞ 基調講演「循環・3R推進とリサイクル関連法の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室

室長補佐

谷貝雄三氏

＜第Ⅱ部＞ 事例発表

- ・事例発表1 「つれもて分別ごみ減量～美しい海・山・川の城下町わかやま～」

和歌山市市民環境局環境事業部一般廃棄物課企画班長

川原真己子氏

- ・事例発表2 「もったいない～この和歌山の環境を未来に引き継ぐために～」

ふるさと倶楽部会長

白井忠氏

- ・事例発表3 「リユースびんの大和茶（と、わ（to wa）」

World Seed 代表理事

岡見厚志氏

- ・事例発表4 「3R推進と主体間連携の強化」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長

鬼沢良子氏

(2) 3R活動推進フォーラムの自主事業による共催

①平成26年8月1日（金）13:00～16:40

□名称：循環・3Rシンポジウム～信頼と連携で共創する地域循環圏～

□主催：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3R活動推進フォーラム

□会場：日比谷図書文化館 小ホール

□内容：

＜第1部＞基調講演

「循環型社会の形成に向けてー小型家電と食品リサイクル等ー」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

＜第2部＞話題提供

- ・話題1 「横浜市における小型家電リサイクル」

横浜市資源循環局業務課分別・リサイクル推進担当係長

佐々井正泰氏

- ・話題2 「松本市における食品ロス削減の取り組み」

松本市市民環境部環境政策課課長補佐

羽田野雅司氏

- ・話題3 「神戸市環境共栄事業協同組合による食品リサイクルの新しい取り組み」

神戸市環境共栄事業協同組合専務理事兼事務局長

澤田弘氏

＜第3部＞シンポジウム・参加者交流

コーディネーター：

3R活動推進フォーラム副会長

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

パネリスト：講師、話題提供者

②平成26年9月5日（金）13:10～16:20

□名称：平成26年度公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム年次報告会

□主催：公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム

□会場：江戸東京博物館 会議室

□内容：

○特別講演「廃棄物・リサイクル行政の現状と課題について」

環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長

和田篤也氏

○調査研究概要報告

①「災害廃棄物対策指針の策定」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 上席研究員

河村栄作氏

②「災害廃棄物処理等に関する情報プラットフォーム構築及び災害時マネジメント力向上方策」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 特別研究員

森朋子氏

③「地域防災拠点となる廃棄物処理施設におけるエネルギー供給方策」

前(公財) 廃棄物・3R研究財団 統括研究員

現日本環境安全事業(株) 事業部長

東幸毅氏

④「総合的な2Rシステムの構築に向けた調査・検討」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 上席研究員

夏目吉行氏

⑤「家庭系有害廃棄物(HHW)の現状把握と回収システム構築のための研究」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 調査部長

藤波博氏

⑥「RDFの現状と課題」

(公財) 廃棄物・3R研究財団客員研究員

渡辺洋一氏

○総括

(公財) 廃棄物・3R研究財団理事長

田中勝氏

(3) 3R推進団体連絡会との意見交換会共催

□名称：容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会

□主催：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

①第1回 平成26年7月25日(金) 13:00~16:45

□会場：JA長野県ビル 12階A会議室

□内容：

<第1部>基調講演・事例発表

・基調講演 関東学院大学教授

織朱實氏

・事例1 長野県環境部資源循環推進課廃棄物政策係

神林純也氏

・事例2 長野市環境部生活環境課係長

上原和久氏

・事例3 上田市エコ・サポート21 環境カウンセラー

栗田たか子氏

・事例4 3R推進団体連絡会幹事

久保直紀氏

<第2部>グループ討論

・3つのワーキンググループによる意見交換

・全体総括(グループ報告、全体報告)

②第2回 平成26年11月7日(金) 13:00~16:45

□会場：ひめぎんホール本館6階会議室

□内容：

<第1部>事例発表

・事例1 愛媛県県民環境部環境局循環型社会推進課主幹

大西亮一氏

- | | |
|---------------------------------|--------|
| ・事例 2 松山市環境部清掃課副主幹 | 平田正次郎氏 |
| ・事例 3 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長 | 鬼沢良子氏 |
| ・事例 4 まつやま R e ・再来館（りっくる）館長 | 吉田啓二氏 |
| ・事例 5 3 R 推進団体連絡会 幹事 | 加藤稔氏 |

＜第 2 部＞グループ討論

- ・ 3 つのワーキンググループによる意見交換
- ・ 全体総括（グループ報告、全体報告）

③第 3 回 平成 27 年 2 月 20 日（金）13：00～16：45

□会場：名古屋国際センター別館ホール

□内容：

＜第 1 部＞事例発表

- | | |
|----------------------------|-------|
| ・事例 1 名古屋市環境局ごみ減量部資源化推進室主査 | 笠本友作氏 |
| ・事例 2 大垣市環境市民会議 事務局次長 | 奥田陽子氏 |
| ・事例 3 あいちゴミ仲間ネットワーク会議代表 | 岩月宏子氏 |
| ・事例 4 3 R 推進団体連絡会 幹事 | 久保直紀氏 |

＜第 2 部＞グループ討論

- ・ 3 つのワーキンググループによる意見交換
- ・ 全体総括（グループ報告、全体報告）

2. 3 R 推進地方大会への協力

各地方環境事務所が中心となって開催する 3 R 推進地方大会に対して後援等の協力を行うとともに、積極的に PR した。

①平成 26 年度 3 R 推進北海道大会

平成 27 年 2 月 21 日（土）札幌市内

② 3 R 推進東北大会 in せんだい 2014

平成 26 年 9 月 7 日（日）仙台市内

③第 9 回 3 R 推進関東大会

平成 26 年 10 月 19 日（日）相模原市内

平成 26 年 10 月 29 日（水）相模原市内

3. その他の後援・協賛等

（1）後援

①第 9 回容器包装 3 R 推進フォーラム

- ・主催：3 R 推進団体連絡会
- ・開催期日・場所：平成 26 年 12 月 15 日（月）～16 日（火）都内

②建設副産物リサイクル広報ポスター

- ・実施主体：建設副産物リサイクル広報推進会議
- ・掲出期間：平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日

③2014 建設リサイクル技術発表会・技術展示会

- ・主催：建設副産物リサイクル広報推進会議中国地方建設副産物対策連絡委員会
- ・開催期日：平成 26 年 11 月 21 日（金）

(2) 協賛

①平成 26 年度環境衛生週間

- ・主唱：環境省、都道府県及び市町村
- ・期間：平成 26 年 9 月 24 日～10 月 1 日

②第 13 回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」

- ・主催：（一社）全国産業廃棄物連合会、（公財）日本産業廃棄物処理振興センター
（公財）産業廃棄物処理事業振興財団
- ・開催期日・場所：平成 26 年 11 月 7 日（金）盛岡市内

(3) 協力

①平成 26 年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」

- ・実施主体：環境省、内閣府、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省他
関係省庁、都道府県等
- ・期間：平成 26 年 5 月 30 日（金）～6 月 5 日（木）

②第 7 回 3 R・低炭素社会検定

- ・主催：3 R・低炭素社会検定実行委員会
- ・試験日：平成 27 年 1 月 11 日（日）

(4) 講師派遣

3 R・低炭素社会検定講習会講師（3 R・低炭素社会検定実行委員会主催）

- ・平成 26 年 11 月 16 日（日）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室
- ・平成 26 年 11 月 29 日（土）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室

(5) 参加

散乱防止美化キャンペーン（スチール缶リサイクル協会主催）

- ・平成 26 年 7 月 12 日（土）栃木県日光市内及び宇都宮市内
- ・平成 26 年 11 月 1 日（土）静岡県裾野市内

V 広報普及活動

1. 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的として、毎年、10月の3R推進月間に環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかけており、平成 26 年度は、47 都道府県、49 事業者（56,218 店舗）で実施された。

2. 展示会への出展

(1) エコライフ・フェア 2014

開催日：平成 26 年 6 月 6 日（土）～7 日（日）

会 場：都立代々木公園

(2) 相模原市リサイクルフェア 2014

開催日：平成 26 年 10 月 19 日（日）

会 場：相模原麻溝公園

(3) 平成 26 年度（公社）全国都市清掃会議秋季評議員会展示コーナー

開催日：平成 26 年 10 月 23 日（木）

会 場：長岡グランドホテル 2 階ロビー

3. 出版物等の発行

(1) 2014 年次報告書作成

3 R 活動推進フォーラムの平成 25 年度の事業を中心に報告書を作成、ホームページに掲載し、会員、都道府県等関係先に案内した。

(2) 平成 26 年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施報告書の作成

環境省、経済産業省と「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施、都道府県及び流通事業者の実施報告書を作成、全国都道府県、流通事業者等に送付した。

(3) 3 R 活動先進事例集 2014 の作成

平成 26 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取組をまとめた 3 R 先進活動事例集を作成し、都道府県、会員等に送付した。

(4) その他

- ・ 3 R 推進月間用ポスターの作成

平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした 2 種類の 3 R 推進月間用のポスターデータを作成し、希望者に提供した。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

ホームページに各種お知らせ、開催イベントの様態及び関連資料、発行済みの機関誌・メルマガ等を掲載した。

(2) メルマガ「3 R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月 3 回配信した。

(3) 3 R 活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務報告などを事務局通信として 4 回配信した。

5. 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

(1) 記事

①日刊工業新聞

平成 26 年 10 月 10 日（第 9 回 3 R 推進全国大会告知）

②環境新聞

平成 26 年 10 月 29 日 3 R 推進月間特集（第 9 回 3 R 推進全国大会告知）

平成 26 年 11 月 5 日 3 R 推進全国大会開催

③ウエイスト・マネジメント

平成 26 年 10 月 25 日（第 9 回 3 R 推進全国大会告知）

平成 26 年 11 月 5 日 3 R 推進全国大会開催

④月刊廃棄物

平成 26 年 12 月号 3 R 推進全国大会開催

⑤月刊ウエイスト・リサーチ

平成 26 年 12 月号 3 R 推進全国大会開催

⑥環境情報

平成 26 年 11 月 11 日 3 R 推進全国大会開催

(2) 広告

①神奈川新聞

平成 26 年 10 月 13 日付第 9 回 3 R 推進全国大会突き出し広告

②環境新聞

平成 26 年 10 月 22 日付 3 R 推進月間特集号企画 5 段 1/2

平成 27 年 1 月 1 日環境新聞新年特別号名刺広告

③ウエイスト・マネジメント

平成 26 年 10 月 25 日付第 9 回 3 R 推進全国大会特集連名広告

6. ガイドラインに沿った R マーク表示の普及推進

3 R 活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成 7 年 6 月に定めた再生紙普及のための R マーク（再生紙マーク）について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等を併せて広報に努めた。

(1) ホームページでの普及啓発

R マークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載した。

(2) 問い合わせ

R マークについて、掲載方法や掲載物等に関する電話はなどでの問い合わせ、教材などへの掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

VI 会員サービスの充実

1. 会員との連携・協働事業の実施

自治体、団体会員とセミナー等を開催した。

2. 情報の発信・共有化

(1) 会員のイベント情報等をメルマガで配信（前掲）

月 3 回配信しているメルマガ「3 R・廃棄物ニュース」（前掲）に会員のイベント情報等を掲載した。

(2) 3 R 活動推進フォーラム事務局通信の配信（前掲）

事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信を配信した。

(3) ホームページの会員ページによる情報提供

①年次報告書 2014 版等をホームページ上に掲載した。

②ホームページの会員ページにおいて行政資料等会員向け情報を掲載した。

3. 会員割引料金による資料提供

(1) 平成 26 年 9 月 5 日（金）の公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団との共催による年次報告会において、会員の資料代（一般参加者 2,000 円）を無料とした。

(2) 公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団が発行する「ブック財団」を財団会員同様の会員サービス価格で提供した。

4. 3 R グッズ等の配布

(1) 3 R 推進月間用ポスターデータの配布

平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした 3 R 推進月間用ポスター 2 種のデータを作成、10 月の 3 R 推進月間を中心に希望者に無料で配布した。

(2) クリアファイルの販売・配布

平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインしたクリアファイルを作成し、販売、3 R 啓発用に展示会等での配布を行った。

平成 26 年度収支決算書 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 会 費 収 入	4,500,000	4,500,000	0	
(1) 会費収入	4,500,000	4,500,000	0	会員45件
2 事 業 収 入	500,000	742,500	242,500	
(1) 3R推進企画運営業務収入	500,000	700,000	200,000	ゴスター・ランナー・H26事務作品受付管理費
(2) クリアファイル販売収入	0	42,500	42,500	
3 利 息 収 入	600	545	△ 55	
(1) 普通預金利息収入	600	545	△ 55	
当 期 収 入 合 計	5,000,600	5,243,045	242,445	
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,022,893	1,022,893	0	
収 入 合 計	6,023,493	6,265,938	242,445	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 普 及 啓 発 費	1,350,000	2,437,084	1,087,084	
(1) 企画等運営費	360,000	580,841	220,841	
1) 謝金	0	5,000	5,000	
2) 旅費	50,000	110,000	60,000	
3) 会議費	190,000	308,523	118,523	総会懇親会費用等
4) 貸借料	120,000	125,215	5,215	総会会場費等
5) 調査旅費	0	5,239	5,239	
6) 雑費	0	26,864	26,864	
(2) 3 R 推 進 大 会 費	350,000	156,991	△ 193,009	全国大会及び地方大会等
1) 謝金	150,000	20,000	△ 130,000	
2) 消耗品費	50,000	25,485	△ 24,515	
3) 調査旅費	90,000	61,880	△ 28,120	
4) 広告宣伝費	50,000	48,600	△ 1,400	
5) 雑費	10,000	1,026	△ 8,974	
(3) セミナー 等 開 催 費	240,000	63,400	△ 176,600	
1) 謝金	50,000	15,000	△ 35,000	
2) 旅費	50,000	27,920	△ 22,080	
3) 通信運搬費	10,000	1,998	△ 8,002	
4) 会議費	10,000	5,344	△ 4,656	
5) 消耗品費	0	108	108	
6) 貸借料	100,000	10,500	△ 89,500	
7) 調査旅費	20,000	2,530	△ 17,470	
(4) 広 報 活 動 費	400,000	1,635,852	1,235,852	炭化キヤンペーン、エコライフフェア等
1) 印刷製本費	200,000	457,920	257,920	事業案内パンフ、クリアファイル作成
2) 通信運搬費	10,000	966,060	956,060	ポスター・パンフレット、ホームページ制作等
3) 消耗品費	10,000	3,240	△ 6,760	
4) 貸借料	20,000	15,120	△ 4,880	
5) 調査旅費	60,000	65,860	5,860	
6) 広告宣伝費	50,000	71,600	21,600	
7) 人材派遣費	50,000	55,944	5,944	エコライフ等受付手伝
8) 雑費	0	108	108	
2 管 理 費	3,600,000	2,029,282	△ 1,570,718	
(1) 業 務 委 託 費	3,000,000	0	△ 3,000,000	
(2) その他管理費	600,000	2,029,282	1,429,282	
1) 印刷製本費	120,000	232,787	112,787	
2) 通信運搬費	360,000	149,905	△ 210,095	
3) 消耗品費	60,000	37,385	△ 22,615	
4) 光熱水材費	0	92,981	92,981	
5) 貸借料	0	1,492,500	1,492,500	
6) 租税公課	1,000	108	△ 892	
7) 雑費	59,000	23,616	△ 35,384	
当 期 支 出 合 計	4,950,000	4,466,366	△ 483,634	
当 期 収 支 差 額	50,600	776,679	726,079	
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,073,493	1,799,572	726,079	

平成 26 年度貸借対照表 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

(単位:円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【負 債】	
現 金	138,867	未 払 金	281,124
普通預金	1,941,829	【正味財産】	
		正 味 財 産	1,799,572
		(うち当期正味財産増加額)	(776,679)
資 産 合 計	2,080,696	負債及び正味財産合計	2,080,696

＜第2号議案＞

平成27年度事業計画及び収支予算について

第三次循環型社会形成推進基本計画においては、質にも着目した循環型社会の形成が求められており、2Rの推進、リサイクルの高度化、バイオマス資源のエネルギー化、各主体間の連携による地域循環圏の高度化などの取組が重要となっている。

そこで、3R活動推進フォーラムでは、平成27年度の実業計画として、これらを促進するため、3R推進全国大会や3R促進ポスターコンクールなどの取組に加え、会員団体相互の連携・協働による循環・3Rシンポジウムやセミナーなどを開催するとともに、広報普及活動、会員サービスの充実を図るため、以下の事業を実施する。

I 組織運営

3R活動推進フォーラムの円滑な運営を図るため、理事会、総会を開催し、事業計画や予算及び決算等を決定する。また、関係省庁、地方自治体、関係団体、学識者等で構成する企画・運営委員会を開催し、今後の事業について意見交換を行う。

1. 理事会

開催日時：平成27年5月18日（月）

議 題：①平成26年度事業報告及び決算について
②平成27年度事業計画及び予算について
③その他

2. 総会

開催日時：開催日時：平成27年5月18日（月）

議 題：①平成26年度事業報告及び決算について
②平成27年度事業計画及び予算について
③その他

3. 企画・運営委員会

開催時期：第1回7～8月 第2回2～3月

議 題：今後の事業等について

II 会員の強化・拡充

自治体及び団体会員の入会を促進し、会員の強化・拡充を図る。

1. 自治体会員

会費の無料化によって、自治体会員の入会が増えているが、引き続き都道府県会員の増強及び政令指定都市等の入会を促進する。

（参考）未加入県：秋田県、福島県、山梨県、徳島県、福岡県、宮崎県、鹿児島県

未加入政令指定都市：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、静岡市、新潟市、
浜松市、京都市、広島市、福岡市、熊本市。

2. 団体会員等

団体会員等への情報提供、連携強化を推進し、会員の入会促進を図る。

Ⅲ 3R推進全国大会関連事業

今年度は、「第10回3R推進全国大会」を開催するとともに、大会式典で表彰する3R促進ポスターコンクールを実施する。

1. 3R推進全国大会の開催

3R推進全国大会を環境省、福井県、3R活動推進フォーラム等により開催する。

☐開催期日 11月を予定

☐開催場所 福井県生活学習館（福井県福井市）

2. 3R促進ポスターコンクールの実施

3R促進ポスターコンクールは環境省と毎年実施しているもので、循環型社会の形成を推進するために、小学生、中学生を対象に3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人ひとりが循環型社会のあり方について考えるきっかけにするとともに、優秀な作品を全国の3R活動の推進に活用するなど普及啓発に資することを目的としている。

☐公募開始 平成27年5月下旬予定

☐応募締切 平成27年9月中旬予定

☐表彰式 第10回3R推進全国大会の席上

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成18年度より環境省が実施している循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰について、平成27年度も会員団体から循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について会員団体からの推薦に基づき、当フォーラムから環境省に対して推薦を行う。

Ⅳ 連携・協働事業

行政、民間団体、企業、NPO等と連携・協働して、循環3Rシンポジウムや研修・学習相談事業等を推進する。

1. 循環型社会形成推進セミナーの開催

行政、民間団体、企業、NPO等と連携・協働して、循環型社会形成推進セミナー等を5回程度開催する。

2. 年次報告会開催

公益財団法人廃棄物・3R研究財団と年次報告会を開催する。

3. 研修・学習相談事業

会員からの要望により、研修・学習相談事業を行っていく。

4. 3R推進地方大会への協力

環境省地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に対して後援等の協力を行う。

5. その他後援・協賛等

関係団体の開催イベントに後援・協賛や講師派遣、参加等の協力を行う。

Ⅴ 広報普及活動

3Rの普及啓発のため、「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施、関連展示会への出展、ホームページの充実、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の発信、各種出版物の発行、3R啓発ポスターの作成、専門新聞・雑誌を活用した広報活動などを行う。

1. 「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施

環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかける。

2. 展示会への出展

(1) エコ博（アピタ富山東）への出展

2 R 及び 3 R 行動見える化ツールの P R、クイズによる 3 R 啓発活動を行う。

(2) エコライフ・フェア 2015 への出展

環境省が環境月間に代々木公園で開催するエコライフ・フェアに出展する。

(3) 地方開催の環境展等への出展

川越市主催のエコプロダクツ川越 2015 へ出展し、3 R 啓発活動を行う。

(4) 3 R 推進全国大会福井大会展示コーナーへの出展

大会参加者に対する 3 R 情報の提供を行う。

3. 出版物の発刊

(1) 年次報告書 2015 版の発行

3 R 活動推進フォーラムの平成 26 年度の活動状況等を年次報告書（6 月下旬作成予定）としてとりまとめ、発行する。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

(2) メルマガ「3 R・廃棄物ニュース」（月 3 回）の配信

(3) 3 R フォーラム事務局通信（会員向けに月 1 回）の配信

5. 3R啓発ポスターの作成

年間を通して使用できる 3 R 推進の啓発用ポスターや 3 R 推進月間用ポスター等として印刷して使用できるデータを作成し、希望者に提供する。

6. 専門新聞・雑誌の活用

専門新聞・雑誌の取材に積極的に協力するとともに、当フォーラムの事業について記事掲載等による周知を図る。

7. ガイドラインに沿った R マーク表示の普及推進

R マークの使用にあたっての留意事項等を引き続きホームページに掲載するとともに、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせに対応する。

VI 会員サービスの充実

組織の強化・拡充と相俟って、会員サービスの充実を図る。

1. 会員との連携協働事業の推進

会員との共催によるセミナー開催等連携協働事業の推進により、主体間連携の強化、パートナーシップの育成、各主体における情報量の拡大、内容の充実、コスト削減等に寄与する。

2. 会員への情報提供の拡充

(1) 会員専用ページによる情報提供

ホームページの会員ページで会員向けの情報提供を行う。

(2) 事務局通信の配信

会員向けの事務局通信を引き続き毎月 1 回配信する。

(3) 各種出版物の配布

各種出版物を会員に提供する。

3. 会員情報の発信

(1) メルマガによる情報発信（前掲）

毎月3回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」で、会員のイベント情報等を掲載する。

(2) ホームページによる情報発信

会員情報について、ホームページに掲載する。

4. 会員割引料金による資料等提供

公益財団法人廃棄物・3R研究財団が発行する「ブック財団」（有料頒布）について会員割引料金で提供する。

5. 3Rグッズの制作・配布

(1) 3Rグッズの制作

会員の希望により3Rグッズを制作し、安価に提供する。

(2) 3R啓発ポスターデータの制作・提供

3R推進キャンペーンポスターとして使用できる、3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたポスターデータ等を制作し、会員希望者に無料で提供する。

(3) クリアファイルの販売・配布

平成26年度3R促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインしたクリアファイルを作成し、安価に提供する。

Ⅶ 調査研究の実施

1. 公益財団法人廃棄物・3R研究財団の3R関連調査研究への協力

2. 資源循環を推進するための調査等の実施

平成 27 年度収支予算 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

1.収入の部

(単位:円)

科 目	平成27年度 予算額	平成26年度 決算額	差引額	備 考
1 会 費 収 入	4,500,000	4,500,000	0	
(1) 会費収入	4,500,000	4,500,000	0	会員45件
2 事 業 収 入	700,000	742,500	42,500	
(1) 3R推進企画運営業務収入	700,000	700,000	0	ポスター・パネル応募作品受付管理費
(2) クリアファイル販売収入	0	42,500	42,500	
3 利 息 収 入	600	545	△ 55	
(1) 普通預金利息収入	600	545	△ 55	
当 期 収 入 合 計	5,200,600	5,243,045	42,445	
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,799,572	1,022,893	△ 776,679	
収 入 合 計	7,000,172	6,265,938	△ 734,234	

2.支出の部

科 目	平成27年度 予算額	平成26年度 決算額	差引額	備 考
1 普 及 啓 発 費	3,110,000	2,437,084	△ 672,916	
(1) 企画等運営費	600,000	580,841	△ 19,159	
1) 謝金	10,000	5,000	△ 5,000	
2) 旅費	110,000	110,000	0	
3) 会議費	310,000	308,523	△ 1,477	総会懇親会費用等
4) 賃借料	130,000	125,215	△ 4,785	総会会場費等
5) 調査旅費	10,000	5,239	△ 4,761	
6) 雑費	30,000	26,864	△ 3,136	
(2) 3 R 推 進 大 会 費	400,000	156,991	△ 243,009	全国大会及び地方大会等
1) 謝金	20,000	20,000	0	
2) 消耗品費	25,000	25,485	485	
3) 調査旅費	300,000	61,880	△ 238,120	
4) 広告宣伝費	50,000	48,600	△ 1,400	
5) 雑費	5,000	1,026	△ 3,974	
(3) セミナー等開催費	280,000	63,400	△ 216,600	
1) 謝金	30,000	15,000	△ 15,000	
2) 旅費	50,000	27,920	△ 22,080	
3) 通信運搬費	20,000	1,998	△ 18,002	
4) 会議費	10,000	5,344	△ 4,656	
5) 消耗品費	5,000	108	△ 4,892	
6) 賃借料	150,000	10,500	△ 139,500	
7) 調査旅費	15,000	2,530	△ 12,470	
(4) 広 報 活 動 費	1,830,000	1,635,852	△ 194,148	英化キャンペーン、エコライフ等
1) 印刷製本費	900,000	457,920	△ 442,080	事業案内パンフ、クリアファイル作成
2) 通信運搬費	620,000	966,060	346,060	セミナー受付、研修費、セミナー協賛費等
3) 消耗品費	10,000	3,240	△ 6,760	
4) 賃借料	30,000	15,120	△ 14,880	
5) 調査旅費	120,000	65,860	△ 54,140	
6) 広告宣伝費	80,000	71,600	△ 8,400	
7) 人材派遣費	60,000	55,944	△ 4,056	エコライフ等受付手伝
8) 雑費	10,000	108	△ 9,892	
2 管 理 費	2,070,200	2,029,282	△ 40,918	
1) 印刷製本費	250,000	232,787	△ 17,213	
2) 通信運搬費	150,000	149,905	△ 95	
3) 消耗品費	40,000	37,385	△ 2,615	
4) 光熱水材費	150,000	92,981	△ 57,019	
5) 賃借料	1,450,000	1,492,500	42,500	
6) 租税公課	200	108	△ 92	
7) 雑費	30,000	23,616	△ 6,384	
当 期 支 出 合 計	5,180,200	4,466,366	△ 713,834	
当 期 収 支 差 額	20,400	776,679	756,279	
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,819,972	1,799,572	△ 20,400	

理事及び監事の選任について

- 1 規約第9条第2項により、理事及び監事を下記の通り選任する。
任期は平成27年5月18日から平成28年5月22日とする。

理	事	田中久雄	一般財団法人家電製品協会理事長
監	事	中田良平	スチール缶リサイクル協会専務理事

2. 企画・運営委員会

平成 26 年度企画・運営委員会を 3 月 23 日（月）午前 10 時から(公財)廃棄物・3 R 研究財団会議室で開催いたしました。これには、環境省から廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室の庄子真憲室長にご出席いただいたのをはじめ、経済産業省からもご出席いただきました。

委員会では、平成 26 年度の事業実施状況をご報告するとともに、平成 27 年度の事業計画（案）などについてご意見をいただきました。

【出席者】（敬称略）

<委員>

香川智紀 公益社団法人全国産業廃棄物連合会事業部長兼調査部長
加納敏行 建設副産物リサイクル広報推進会議常任参事兼企画部長
鬼沢良子 特定非営利活動法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長
栗原雅夫 川口市環境部次長兼廃棄物対策課長
田中裕二 一般財団法人家電製品協会環境部長
中石一広 株式会社エックス都市研究所環境エンジニアリング事業本部副本部長
中田良平 スチール缶リサイクル協会専務理事
二村睦子 日本生活協同組合連合会環境事業推進部長
三浦佳子 消費生活コンサルタント
村崎史郎 一般社団法人日本有機資源協会専務理事
山本耕平 株式会社ダイナックス都市環境研究所代表取締役
山脇 敦 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団適正処理推進部・不法投棄対策部長
幸 智道 ガラスびん 3 R 促進協議会事務局長

<関係省庁>

庄子真憲 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長
伊藤宏充 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長補佐
梅田英幸 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課課長補佐
塩田大 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課係長

<オブザーバー>

小峰且也 株式会社環境新聞社専務取締役
新倉充 日報ビジネス株式会社環境編集部課長
松澤淳 株式会社環境産業新聞社取締役社長

<事務局>

藤波博 3 R 活動推進フォーラム専任理事兼事務局長
藤本正 3 R 活動推進フォーラム広報担当部長

平成 26 年度企画・運営委員会
（平成 27 年 3 月 23 日（公財）廃棄物・3R 研究財団会議室）



Ⅱ 組織・規約(平成27年6月26日現在)

1. 役員等

会 長	細田衛士	慶應義塾大学経済学部教授
副 会 長	崎田裕子	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
専任理事	藤波博	3R活動推進フォーラム事務局長
理 事	石井邦夫	(公社)全国産業廃棄物連合会会長
理 事	宇田川育男	(一社)日本環境保全協会会長
理 事	小川賢治	(一社)日本経済団体連合会環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会長代行
理 事	長田守弘	(一社)廃棄物資源循環学会副会長
理 事	葛西光春	(公社)全国都市清掃会議会長
理 事	北橋建治	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理 事	西藤久三	(一財)食品産業センター理事長
理 事	末吉興一	(公財)国際東アジア研究センター理事長
理 事	田中久雄	(一財)家電製品協会理事長
理 事	藤村コノエ	NPO法人環境文明 21 共同代表
理 事	三井崇裕	(一社)全国清掃事業連合会会長

(理事 50 音順)

監 事	佐々木五郎	(公社)全国都市清掃会議専務理事
監 事	中田良平	スチール缶リサイクル協会専務理事

(監事 50 音順)

顧 問	加藤三郎	(株)環境文明研究所代表取締役所長
顧 問	庄子幹雄	NPO法人環境立国理事長
顧 問	千葉弘記	(一社)日本環境保健活動団体連合会会長

(顧問 50 音順)

2. 事務局

(1) 体制

専任理事・事務局長 藤波博 ((公財) 廃棄物・3R研究財団調査部長)
広報担当部長 藤本正 ((公財) 廃棄物・3R研究財団広報担当部長)
事務局員 金安恭子

(2) 住所

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F(公財)廃棄物・3R研究財団内
TEL : 03-6908-7311 FAX : 03-5638-7164
E-mail : info@3r-forum.jp

3. 会員

3R活動推進フォーラム 会員一覧

H27.6.26現在

No.	団 体 名	No.	団 体 名	No.	団 体 名
自治体会員		43	北九州市	30	全国生活学校連絡協議会
1	北海道	44	目黒区	31	(一社)全国清掃事業連合会
2	青森県	45	豊島区	32	(一社)全国清涼飲料工業会
3	岩手県	46	荒川区	33	全国地域婦人団体連絡協議会
4	宮城県	47	練馬区	34	(一社)日本環境保健活動団体連合会
5	山形県	48	足立区	35	(公社)全国都市清掃会議
6	茨城県	49	岩見沢市	36	(公財)全国老人クラブ連合会
7	栃木県	50	川口市	37	全日本自治団体労働組合
8	群馬県	51	船橋市	38	電気事業連合会
9	埼玉県	52	豊田市	39	中間貯蔵・環境安全事業(株)
10	千葉県	53	東海市	40	(一社)日本環境衛生施設工業会
11	東京都	54	佐賀市	41	(一財)日本環境衛生センター
12	かながわ3R推進会議	計54会員		42	(公財)日本環境協会
13	新潟県	民間団体会員		43	(公財)日本環境整備教育センター
14	富山県	1	(公財)あしたの日本を創る協会	44	(一社)日本環境保全協会
15	石川県	2	アルミ缶リサイクル協会	45	日本化粧品工業連合会
16	福井県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	46	JMIA 日本鉱業協会
17	長野県	4	(一財)家電製品協会	47	日本再生資源事業協同組合連合会
18	岐阜県	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	48	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター
19	静岡県	6	ガラスびん3R促進協議会	49	(一財)日本消費者協会
20	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	50	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
21	三重県	8	NPO法人環境技術支援ネットワーク	51	(一社)日本自動車工業会
22	滋賀県	9	(一財)環境事業協会	52	日本生活協同組合連合会
23	京都府	10	(公社)環境生活文化機構	53	(一社)日本即席食品工業協会
24	大阪府	11	NPO法人環境文明21	54	(一社)日本鉄鋼連盟
25	兵庫県	12	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	55	(一社)日本廃棄物コンサルタント協会
26	奈良県	13	NPO法人グリーンコンシューマー東京ネット	56	(一社)日本パン工業会
27	和歌山	14	建設廃棄物協同組合	57	(公社)日本PTA全国協議会
28	鳥取県	15	建設副産物リサイクル広報推進会議	58	日本百貨店協会
29	島根県	16	国立研究開発法人国立環境研究所	59	NPO法人日本ファイバーリサイクル推進協会
30	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進	17	ごみ減量ネットワーク	60	(一社)日本有機資源協会
31	広島県	18	NPO法人最終処分場技術システム研究協会	61	日本労働組合総連合会
32	山口県	19	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団	62	(一社)廃棄物資源循環学会
33	香川県	20	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット	63	(公財)廃棄物・3R研究財団
34	愛媛県	21	(一財)食品産業センター	64	(一社)パソコン3R推進協会
35	高知県	22	(公社)食品容器環境美化協会	65	びん再利用ネットワーク
36	佐賀県	23	スチール缶リサイクル協会	66	(一社)プラスチック循環利用協会
37	長崎県	24	石油連盟	67	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
38	熊本県	25	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会	68	PETボトルリサイクル推進協議会
39	大分県	26	全国環境整備事業協同組合連合会	69	(公財)水と緑の惑星保全機構
40	沖縄県	27	全国牛乳容器環境協議会	計69会員	
41	大阪市	28	(公社)全国産業廃棄物連合会	会員合計123団体	
42	神戸市	29	(一社)全国浄化槽団体連合会		

4. 3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成22年	4月24日	一部改正
平成26年	5月23日	一部改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事 業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入 会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退 会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役 員)

第9条 フォーラムに次の役員を置く。

理事 30名以内

監事 2名

- 2 理事及び監事は総会において選任する。
- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。
- 7 専任理事は、事務局を総括する。
- 8 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 9 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

2 総会は会長が招集し、役員の任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。

3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を(公財)廃棄物・3R研究財団に置く。

2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委 任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。

この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。

この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。

この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。

この規約の一部改正は、平成24年4月24日から施行する。

この規約の一部改正は、平成26年5月23日から施行する。

(参 考) 3R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成18年5月31日 総会決定

平成22年4月28日 一部改正

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。

第2 自治体会員の負担金は免除する

第3 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。

第4 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

5. 3R活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目 的)

第1条 3R活動推進フォーラム(以下「フォーラム」という。)規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会(以下「委員会」という。)を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構 成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任 期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招 集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附 則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

6. 「3 R活動推進フォーラム」について

(1) 「3 R活動推進フォーラム」の沿革—ごみ減量化から3 Rへ—

「3 R活動推進フォーラム」の沿革—ごみ減量化から3 Rへ—

「3 R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物処理法」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、再生利用(リサイクル)等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱(法目的)として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあって、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、全国大会開催とは別に、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙マーク(Rマーク)の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われています。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2001)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会造り」(循環型社会造り)の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成16年(2003)6月、米国シーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、小泉元総理は、3 R(ごみの発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))を通じた循環型社会の形成を目指す「3 Rイニシアティブ」を提唱し、G8各国の首脳の合意を得ました。翌平成17年(2004)4月、我が国は「3 Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3 Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3 Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3 R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3 R活動推進フォーラム」(会長：小宮山宏東京大学総長)が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団(平成23年12月に(公財)廃棄物・3 R研究財団に移行)に事務局が移り、現在に至っています。

・歴代会長

第1代	平成18年1月から平成18年7月	環境文明研究所 代表 加藤三郎氏
第2代	平成18年7月から平成22年4月	東京大学総長 小宮山宏氏
第3代	平成22年4月から平成26年5月	東京大学大学院教授 武内和彦氏
第4代	平成26年5月から	慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏

・会員数

会員は、自治体会員54、民間会員69、合わせて123会員(平成27年3月31日末現在)

(2) 事業活動

3 R活動推進フォーラムは、①3 Rに関する研鑽・啓発、②3 Rに関する先進的事業の実施・支援、③3 Rに関する調査研究の実施・支援、④3 Rに関する国内外の情報の収集、提供等に関連す

る事業を実施しています。具体的には、3 R推進全国大会（10 月）の開催、3 R促進ポスターコンクールや環境にやさしい買い物キャンペーンの実施、連携・協働事業としてのセミナー・研修会などの開催、3 R推進地方大会などへの協力の他、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦など幅広く事業を展開しています。

平成 27 年度の事業計画については、5 月 18 日の総会において承認されました。第三次循環型社会形成推進基本計画などを踏まえ、国内外での対応強化が求められていることから、毎年開催している 3 R推進全国大会などへの取り組みに加え、この基本計画が求めている循環型社会の形成や各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下に示す事業を実施することとしています。

1) 3 R推進全国大会関連事業

平成 27 年度は、福井県で 3 R推進全国大会を開催することとしており、併せて 3 R促進ポスターコンクール、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦も実施する。

2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのフォーラムやセミナー等の共同開催や 3 R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3 R活動の推進事業の推進、拡大に努める。

3) 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

環境省、経済産業省、3 R活動推進フォーラムが行う「環境にやさしい買い物キャンペーン」を、10 月の 3 R月間として実施し、その実績について報告書にとりまとめ関係者に配布する。

4) 研修・学習相談事業

自治体及び会員団体を対象に 3 R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、具体化を検討する。

5) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を年次報告書などにとりまとめ広報に努めるとともに、メルマガ「3 R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く 3 Rの推進を啓発・普及していく。

（3）おわりに—フォーラムの今後—

小泉元総理は、「日本の 3 R推進の経験—循環型社会の構築に向けて—」（環境省、2005 年 4 月）において、「環境保護と経済発展を両立する実現する鍵は科学技術にあります。ごみを減らし、使えるものはくり返し使うというモノを大切にする「もったいない」という心が科学技術と結びついた時に、大きな力を発揮すると思います。」と述べています。これからは、「もったいない」というマインド、すなわち 2 R（ごみの排出量を減らすこと（Reduce）、使えるものは使うこと（Reuse））という先達のノウハウを明確に把握しながら、更に推進することに加え、廃棄物・リサイクル関連技術の高度化にも努める必要があります。

このような大きな命題を前にしたフォーラムですが、限られた人的・予算資源の中で、一步一步、実績を着実に積み上げ関係各位からの信頼を勝ち得て、3 R活動分野の調整役（コーディネーター）の重責を果たすことが求められています。今後とも、3 R業務の推進に全力を尽くす所存ですので、国、地方公共団体、関係団体、NPOをはじめ関係各位のご指導、ご協力をお願いするものです。

<参考資料 1> 3 R活動推進フォーラムの沿革「ごみ減量化から 3 Rへ」

平成 4 年（1992）9 月「ごみ減量化推進国民会議」発足

平成 14 年（2002）7 月「ごみゼロパートナーシップ会議」に改組

平成 18 年（2006）1 月「3 R活動推進フォーラム」に改組

平成 19 年（2007）5 月「3 R活動推進フォーラム」事務局、(財)廃棄物研究財団（現・(公財)廃棄物・3 R研究財団）に移る

<参考資料 2>

3R関係年表

平成 元年 (1989)	6 月、東京都、ごみ減量キャンペーン「TOKYO SLIM89」 8 月、財団法人廃棄物研究財団設立 12 月、鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言
2 年 (1990)	3 月、廃棄物学会設立 10 月、株価暴落し、バブル景気の崩壊 12 月、「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)
3 年 (1991)	6 月、「再生資源利用促進法」公布 10 月、「廃棄物処理法」改正され、法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入された
4 年 (1992)	6 月、地球サミット、リオ・デジャネイロで開催 9 月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> の設立総会を岡山市で開催 9 月、第 1 回ごみ減量化推進全国大会(岡山県、岡山市)
5 年 (1993)	11 月、「環境基本法」公布 第 2 回ごみ減量化推進全国大会(東京都)
6 年 (1994)	5 月、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9 月、第 3 回ごみ減量化推進全国大会(大阪府、大阪市) 12 月、「環境基本計画」発表、循環、共生、参加、国際的取り組み
7 年 (1995)	6 月、「容器包装リサイクル法」公布 6 月、ごみ減量化推進国民会議、「包装・容器の減量化に関する指針」採択、「再生紙使用マーク」(R マーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定 9 月、第 4 回ごみ減量化推進全国大会(千葉県、千葉市)
8 年 (1996)	10 月、ごみ減量化推進国民会議、「PET ボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 10 月、第 5 回ごみ減量化推進全国大会(福岡県、福岡市、北九州市)
9 年 (1997)	1 月、「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン) 6 月、ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10 月、第 6 回ごみ減量化推進全国大会(宮城県、仙台市)
10 年 (1998)	6 月、「家電リサイクル法」公布 6 月、ごみ減量化推進国民会議、再生紙利用促進のガイドライン(改正)採択 10 月、第 7 回ごみ減量化推進全国大会(兵庫県、神戸市) 「地球温暖化対策法」公布
11 年 (1999)	7 月、「ダイオキシン類対策特別措置法」公布 10 月、第 8 回ごみ減量化推進全国大会(埼玉県、浦和市)
12 年 (2000)	5 月、「建設リサイクル法」、「グリーン購入法」公布 6 月、「循環型社会形成推進法」、「食品リサイクル法」、「資源有効利用促進法」公布 10 月、第 9 回ごみ減量化推進全国大会(広島県、広島市)
13 年 (2001)	1 月、中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 10 月、第 10 回ごみ減量化推進全国大会(北海道、札幌市)
14 年 (2002)	7 月、「自動車リサイクル法」公布 7 月、第 10 回総会、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11 月、第 1 回ごみゼロ推進全国大会(徳島県、徳島市)
15 年 (2003)	3 月、「循環型社会形成推進基本計画」公表 10 月、第 2 回ごみゼロ推進全国大会(富山県、富山市)
16 年 (2004)	6 月、G8 シーアイランドサミット(米国)、小泉首相が 3 R イニシアティブを提唱し合意される 10 月、第 3 回ごみゼロ推進全国大会(静岡県、静岡市)

17 年 (2005)	2 月、「京都議定書」発効 4 月、「3 R イニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3 R を通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」 (ごみゼロ国際化行動計画) 発表 10 月、第 4 回ごみゼロ推進全国大会 (長崎県、佐世保市)
18 年 (2006)	1 月、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「3 R 活動推進フォーラム」 発足 3 月、「3 R イニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 7 月、会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10 月、第 1 回 3 R 推進全国大会 (愛知県、名古屋市)
19 年 (2007)	5 月、事務局が(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に移る 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6 月、「21 世紀環境立国戦略」閣議決定、「3 R を通じた持続可能な資源循環」を推 進 G8 ハイリゲンダムサミット (独)、地球温暖化問題が最重要課題の一つ となる 安倍首相「美しい星 50(クールアース 50)を提案 10 月、第 2 回 3 R 推進全国大会(福岡県、北九州市)
20 年 (2008)	3 月、「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7 月、北海道洞爺湖 G8 サミット 10 月、第 3 回 3 R 推進全国大会 (山形県、山形市)
21 年 (2009)	10 月、第 4 回 3 R 推進全国大会 (千葉市)
22 年 (2010)	4 月、会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 5 月、廃棄物処理法改正公布 11 月、第 5 回 3 R 推進全国大会(佐賀県、佐賀市)
23 年 (2011)	8 月、東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布 8 月、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電 所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特 別措置法」公布 10 月、第 6 回 3 R 推進全国大会 (京都市) 12 月、(公財) 廃棄物・3 R 研究財団設立
24 年 (2012)	8 月、特定産業廃棄物特別措置法一部改正法律公布 8 月、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律公布 10 月、第 7 回 3 R 推進全国大会 (東京都内)
25 年 (2013)	4 月、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律施行 5 月、第 3 次循環型社会形成推進基本計画閣議決定 10 月、第 8 回 3 R 推進全国大会 (栃木県)
26 年 (2014)	5 月、会長に細田衛士慶應大学教授が就任 10 月、第 9 回 3 R 推進全国大会 (相模原市)
27 年 (2015)	11 月、第 10 回 3 R 推進全国大会 (福井県) 予定

Ⅲ 平成26年度事業概要

1. 第9回3R推進全国大会

(1) 全体概要

3R推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組みを推進することを目的に毎年開催されており、平成26年度の第9回大会は環境省、環境省関東地方環境事務所、相模原市と3R活動推進フォーラムの主催により10月29日（水）に相模原市内の「相模原市杜のホールはしもと」で開催された。

(2) 第9回3R推進全国大会

1) 開催概要

○日 時

平成26年10月29日（水）

13:15~17:15

○会 場

相模原市杜のホールはしもと
（相模原市緑区橋本3-28-1
ミウィ橋本7・8F）

○参加者

一般市民、事業者、行政関係者など338名

○プログラム

第1部 記念式典

◇主催者挨拶

小里泰弘環境副大臣

加山俊夫相模原市長

細田衛士3R活動推進フォーラム会長

◇来賓挨拶

須田毅相模原市議会議長

◇表彰式

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

3R促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞）

（14:05~14:20の休憩時間を利用して受賞者の記念撮影）

第2部 第9回3R推進全国大会記念シンポジウム

◇基調講演「循環型社会の道筋を展望する」（14:20~14:50）

講師：慶應義塾大学経済学部教授・3R活動推進フォーラム会長

細田衛士氏

◇特別講演「3Rとエコライフを楽しもう」（14:50~15:20）

講師：シンガーソングライター（環境省3R推進マイスター）

白井貴子氏

◇特別発表「3Rを推進する元気な市民リーダーによる3R劇場」（15:20~15:35）

発表者：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットと相模原市の次世代3R市民リーダーの皆さん



第9回3R推進全国大会は相模原市内のミウィ橋本（写真下）にある「杜のホールはしもと」で開催された。



◇パネルディスカッション「食べ物の“もったいない”を考えよう」(15:40～16:45)

【コーディネーター】

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

3R活動推進フォーラム副会長

崎田裕子氏

【パネラー】

前相模原市廃棄物減量等推進審議会委員

宮崎由美子氏

プライムデリカ株式会社取締役

加藤幸作氏

株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役

高橋巧一氏

相模原市環境経済局資源循環部参事(兼)廃棄物政策課長

菅谷一夫氏

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

第3部 次回開催地挨拶(16:45～16:50)

福井県安全環境部企画幹 清水英男氏

第4部 参加者による名刺交換会(16:50～17:15 会場:1Fロビー)

2) 記念式典

①主催者挨拶(要旨)

【小里泰弘環境副大臣】

・環境省では、大量生産、大量消費する社会から、石油や金属などの消費をなるべく少なくして、環境にやさしい循環型社会に変えていこうと取り組んでいる。3R、すなわち、ごみとなるものを減らすリデュース、繰り返して使うリユース、ごみとなったものを資源として再び利用するリサイクルの取組を推進している。

・本大会は、その一環として、国民や事業者、地方自治体の皆様など、幅広い関係者が一堂に会し、相互の取組について理解を深め、また3Rの具体的な取組を全国に発信していくため、毎年開催しており、本年は相模原市の皆様の御協力いただき、第9回を迎える。

・本日循環型社会の形成への御功績により表彰を受けられる皆様には、ぜひその素晴らしい取組を全国に広げる地域のリーダー役として、引き続きの御活躍を御期待申し上げます。また、ポスターコンクールにおいて、1万点以上の応募作品の中から、見事、最優秀賞に選ばれた小、中学生の皆さん、ぜひ3Rを忘れず、毎日の生活の中で続けていってください。そしてお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、お友達に3Rの大事さを広めていってください。

・本日お集まりの皆様、環境省は皆様とともに循環型社会づくりに向け、一層努力してまいりますので、引き続き御協力をお願い申し上げます。

【加山俊夫相模原市長】

・本日は大変御多用の中、第9回3R推進全国大会に、このように多くの皆様方の御参集をいただき心から感謝申し上げます。また、本日は循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰及び3R促進ポスターコンクールの表彰で受賞される皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

・現代社会におきましては、地球環境問題が深刻さを増しており、大量生産、大量消費、大量廃棄のシステムを見直し、次の世代のために環境負荷の少ない社会の構築が求められている。そのためには、行政や企業はもとより、市民一人ひとりが日々の生活の中で3Rの取組を実践



していくことが大切であると考えている。

・本市では、1人1日当たり100グラムのごみの減量化を目標とした相模原ごみDE71（でない）大作戦の実施、そして使用済小型家電リサイクル事業など、ごみの減量化、資源化の施策を推進、展開しており、引き続き、市民の皆様とともに循環型社会の構築に向けまして取り組んでまいりたい。

・本市は、今年、市制施行60周年を迎える。この記念すべき年に意義深い大会を本市で開催できたことを大変喜ばしく思っている。本大会を契機として、3R活動が大いに発展して、資源循環型社会の構築実現のためにさらに頑張っていきたいと思っているので、よろしくお願いを申し上げる。

【細田衛士 3R活動推進フォーラム会長】

・本日の第9回3R推進全国大会は、環境省及び自治体の御協力を得て、10月の3R推進月間に開催している。今年度は相模原市の御協力により開催でき、相模原市の皆様方に心から御礼申し上げる。

・3R活動推進フォーラムは、平成16年6月に米国のシーアイランドで開催されたG8サミットで当時の小泉首相が、ごみの発生抑制（リデュース）、それから再使用（リユース）、そして再生利用（リサイクル）の3Rを通じた循環型社会の形成を目指す、いわゆる3Rイニシアティブを提唱し、合意されたことを踏まえ、平成18年1月に発足した。現在、自治体54会員、民間団体69会員で構成されている。具体的な活動としては、本日の3R推進全国大会、小中学生を対象にした3R促進ポスターコンクール、行政・事業者の協力による環境にやさしい買い物キャンペーンなどのほか、自治体や民間団体と連携した3Rセミナーなど、3R推進活動を全国で積極的に展開している。

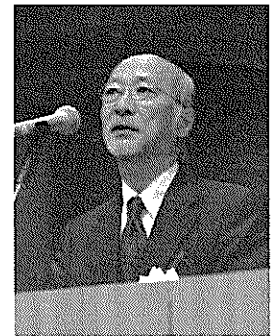
・日本は多くの資源を海外に依存し、資源を輸入しているが、近年、資源ナショナリズムが高まり、国際的な資源の需給逼迫が大変憂慮されていて、3R活動をより一層推進しなければならない事態に直面しているといっても過言ではない。3R活動推進フォーラムは、引き続き環境省や地方自治体、また民間団体等と連携して、今後とも循環型社会形成に向けて、積極的な3R活動を推進してまいりたいと思っている。

②来賓挨拶（要旨）

【須田毅相模原市議会議長】

・第9回3R推進全国大会に全国の皆様においでいただき、盛大に行われることをお祝い申し上げます。3R推進全国大会は、ごみを極力減らそうというリデュース、ものを繰り返し使うというリユース、ものを再生して利用するというリサイクル、この三つのRを企業の皆様、行政、そして国民が一緒になって考えていく大会であると思う。

・戦後、日本は高度経済成長を遂げる一方、大量生産と大量消費、それと大量廃棄の時代の中で、地球温暖化が進んできた。環境問題は今、取り扱うべき喫緊の問題と言える。そうした中、これら3Rの取組の主役は、やはり企業の皆様、そして国民1人1人であると実感する。本大会ではさまざまな視点から3Rについて考えていくと伺っている。本大会を通して皆様方にはよ



り身近に3Rを感じていただき、それぞれの場において3R活動を実践していただけることを願っている。

・市議会としても、環境問題、ごみの減量化、資源化にかかわる問題は、非常に関心の高いものである。循環型社会の実現を目指して、さらなる施策の充実が図られるように一生懸命やらせていただく。

③表彰式

○平成26年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰は、先駆的または独創的な取組により循環型社会の形成について顕著な成果を上げている企業、団体または個人を表彰するもので、平成26年度は8企業、8団体、個人1名が受賞した。(写真下左。受賞者一覧は次ページに掲載)

○平成26年度3R促進ポスターコンクール表彰

3R促進ポスターコンクールの入賞者のうち、小学生低学年の部(1年生・2年生)、小学生中学年の部(3年生・4年生)、小学生高学年の部(5年生・6年生)、中学生の部の4部門の最優秀賞受賞者に表彰状が授与された。(写真下右。受賞作品は45～49ページに掲載)



小里環境副大臣らと受賞者による記念撮影

平成26年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 表彰者一覧

区分	都道府県	企業名・団体名・氏名	取組内容
企業	北海道	生活協同組合コープさっぽろ	北海道を網羅する自社物流網の「良し便し」を活用し、家庭などから資源物を効率的に回収し、資源回収拠点として設置したエコセンターにおいて圧縮・減容処理を行い、再利用、販売を行っています。
	栃木県	ホンダエンジニアリング株式会社	研究開発で使用された化学物質の含まれる工業用水を再利用するための「工場排水のフル循環システム」を独自技術を開発して構築するとともに、産業廃棄物のゼロエミッション活動を推進しています。
	東京都	サントリー食品インターナショナル株式会社	植物由来原料を30%使用した独自開発の国産最軽量ペットボトルをミネラルウォーターに導入するとともに、国産最薄のロールラベルを導入し、省資源に取り組んでいます。
	東京都	株式会社ヤクルト本社	清涼飲料用の箱型紙容器として初めて「ノンアルミ紙容器」を導入し、リサイクル適性の向上及びCO ₂ 排出量の削減を行うとともに、商品の集積包装に「段ボールシート」集積を導入し、廃棄される段ボールを大幅に削減しています。
	京都府	株式会社鼓月	製造工程で発生する小豆の皮等の残さや返品商品を飼料原料へリサイクルすることで、毎日180kg程度の廃棄食品の再資源化を達成しています。
	和歌山県	紀南農業協同組合	梅干の製造工程で発生する調味廃液や残さの処理後に出る余剰汚泥と、独自に考案した脱塩装置によって処理された梅の種を樹皮と混合して堆肥し、紀南農業協同組合の各支所で農家に土壌改良資材として販売することで、生産農家の圃場(ホジョウ)に還元され資源の循環を実現しています。
	鳥取県	因幡環境整備株式会社	昭和41年の設立以来、地域の一般廃棄物の処理や水処理施設の維持管理を行いながら、近年では、地域の環境保全を前提とした循環型社会を構築すべく、食品リサイクル事業及び、容器包装プラスチックの再商品化事業を推進しております。
	福岡県	トータルケア・システム株式会社	病院・介護施設や自治体から出される使用済み紙おむつから、水溶化処理技術によってパルプを取り出し再資源化する、世界で唯一メテリアルリサイクルする事業を展開しています。
	神奈川県	相武台南口商店会	地元小学校及びその生徒と商店会の役員で、座間市の花である「ひまわり」の茎を利用した和紙づくりや、種油にバイオエネルギーの作成を行うとともに、ペットボトルや家庭廃食油のリサイクル等の様々な環境活動を行っています。
	富山県	高岡市立福岡小学校児童会	20年以上にわたり地域の商工会や老人施設、卒業生等を巻き込んだ資源回収活動を実施し、さらに、アルミ缶回収の収益金の寄付による老人施設等との交流や、地域のイベント後の清掃活動等を実施しています。
	岐阜県	特定非営利活動法人エコ・テク岐阜	医療廃棄物等を適正に管理するため、ICタグを活用した「環境ガードシステム」を開発し、岐阜県、静岡県各医師会協同組合、京都府保健事業協同組合への導入及び運用を行うとともに、岐阜県内での産業廃棄物の不法投棄除去事業でも運用を行いました。
	岐阜県	特定非営利活動法人ピープルズコミュニティ	岐阜県輪之内町から委託を受け、資源ごみの回収及び環境学習拠点であるエコドームの管理・運営、生ごみの収集運搬処理業務を10年以上実施し、一般家庭から排出される廃棄物のリサイクル及び環境教育を推進しています。
	愛知県	とよたエコライフ倶楽部	市民・事業者・行政が協働でエコライフを推進するため、買物袋持参運動、家族ぐるみで環境行動に取り組む「エコファミリー制度」の推進、牛乳パックリサイクル商品の普及に取り組んでいます。
	鳥取県	鳥取県連合婦人会	昭和24年の設立以来、環境問題を活動テーマに掲げ、行政等と連携しながら、資源回収、清掃活動、生ごみコンポスト、廃油せっけん作り、マイバッグ運動の実践や各種研修会の開催等を実施しています。
	福岡県	学校法人高見学園高見幼稚園	園児の年齢や体調に応じた給食を自園で調理・提供することにより残食を減らすとともに、調理体験、屋上菜園等の体験学習や、残食のたい肥化など、食育と環境活動を併せて実践しています。
	福岡県	北九州市立井堀小学校	校内の環境委員会の児童を中心に、全校児童で給食牛乳パックを回収し、その回収量を掲示する「環境コーナー」の設置等リサイクルの意識付けを行っており、また通学路のごみを拾いながら登校する「井堀クリーン作戦」等を行っています。
個人	徳島県	津川 なち子	阿波踊りの期間中のごみ減量のために、平成17年から始めた「ごみゼロ阿波踊り大作戦」の実行委員長を長年務めるとともに、マイバッグの推進活動への参加、徳島県環境アドバイザーとして県内学校等への出前授業の実施等にも貢献しています。

3) 記念シンポジウム

【基調講演】「循環型社会の道筋を展望する」

慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏

・3Rという言葉が出てきた理由は2つある。一つは市町村の最終処分場の逼迫、もう一つはごみ処理費用が高くなってきたこと。こうした問題に対処するために、市民も行政も企業も、リデュース・リユース・リサイクルの3Rによって廃棄物を減らそうという努力をしてきた。これまでの3

R政策は、いわゆる廃棄物政策であり、廃棄物をいかに減らすかという大きな役割を担ってきた。

・どうやってそれを進めてきたかという、環境基本法があり、その下に循環型社会形成推進基本法がある。その下に、廃棄物処理法があって、資源有効利用促進法がある。その下に個別のリサイクル法がある。こういう法制度に支えられて私たちの物づくりのあり方が変わり、ライフスタイルも変わってきた。おかげでリサイクルが進み、リユースが進み、リデュースも少しずつ進み、捨てるごみが少なくなってきた。

・これからは、少し考え方を変えなければいけない。これまでの3R政策は廃棄物政策の延長線上だったが、国内だけで物の流れが完結するのであれば、それだけで十分だった。今、静脈資源はボーダレス化していて、物の流れは海外とつながっている。日本の使用済製品、部品、素材は、潜在的な資源としても着目され、実際に買い取られている。考え方を変えないと、国内リサイクルは縮小再生産になる。そればかりか、貴重な資源が海外に逃げていってしまう。

・静脈資源は資源性と汚染性、両方の性質がある。静脈資源が海外に流出していくと、汚染をまき散らしながらリサイクルが行われることになりかねない。日本は高値で天然資源を買いつつ、貴重な静脈資源を海外に流出させている。静脈資源を日本でリサイクルすれば、汚染もないし、資源も国内に残る。

・使用済製品、部品、素材は、もう廃棄物という考え方をやめて、静脈資源という捉え方をすべき時が来たと思う。静脈資源から資源抽出のための効率的なシステム、高い技術の結合が、私は必要だと思う。私はもうできている。また、静脈資源を効率的に集めるシステム、静脈物流をつくって静脈産業を成熟化させる、大規模化することによって費用を小さくしてリサイクル、リユース、リデュースをすることが大事だと思う。現在の静脈産業を動脈産業と同じぐらい元気にする、成熟化させる、タフにしなければならない。

・静脈資源を徹底的に使って、健全で円滑な資源の循環利用を目指すべきときが来ている。それには、戦略的な発想が必要だと思う。もうEUはそういう方向に動いている。こんなに静脈資源をどんどん輸出している国は、日本だけだ。一旦、海外への販路ができしまうと、もう戻らない。今のうちに戦略的発想で、国内で資源循環のシステムをつくるべきときが来ていると思う。



【特別講演】「3Rとエコライフを楽しもう」

シンガーソングライター（3R推進マイスター） 白井貴子氏



【特別発表】 「3Rを推進する元気な市民リーダーによる3R劇場」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気
ネットと相模原市の次世代3R市民リー
ダーの皆さん



【パネルディスカッション】「食べ物の“もったいない”を考えよう」

○コーディネーター NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
3R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏

○パネリスト

前相模原市廃棄物減量等推進審議会委員

プライムデリカ株式会社取締役

株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役

相模原市環境経済局資源循環部参事兼廃棄物政策課長

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課

循環型社会推進室長

宮崎由美子氏

加藤幸作氏

高橋巧一氏

菅谷一夫氏

庄子真憲氏



崎田氏



庄子氏



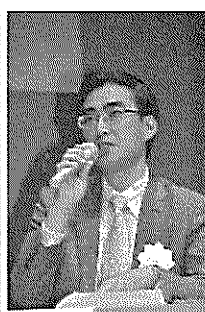
菅谷氏



宮崎氏



加藤氏



高橋氏



4) 次回開催地挨拶

福井県安全環境部企画幹 清水英男氏



5) 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、エントランスホールで、主催関係者や講師・パネリストと大会参加者による名刺交換会が行われた。



(3) 関連イベント

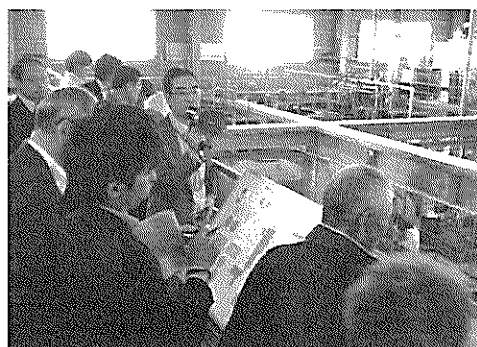
①施設見学

大会当日の午前中、3コースに分かれて施設見学会が行われ、77名が参加した。見学終了後、参加者は大会に参加した。

◇Aコース

視察先：株式会社日本フードエコロジーセンター（相模原市中央区田名塩田 1-17-13）

特 徴：スーパー等の小売店や食品メーカーから排出される食品廃棄物を殺菌・発酵処理し、液体状発酵飼料を製造する施設。廃棄物の処理量は一日あたり 39 トンで、液体状飼料の生産量は年間 1 万トン程。液体状飼料は生産コストが安く、廃棄物の処理コスト削減のほか、飼料を購入している畜産農家の経費削減に貢献している。



参加者：28 名

◇Bコース

視察先：ノジマメガソーラーパーク

（相模原市南区麻溝台 3412-2）

特 徴：埋め立てが終了した相模原市の一般廃棄物最終処分場を 20 年間の期限付きで「メガソーラーパーク」として転用。太陽光発電の普及拡大や環境教育を目的



として、積極的な広報活動を行っている。設備は株式会社ノジマが運用。太陽光パネル7,688枚で、年間178万キロワット（一般家庭約500世帯分）を発電している。

参加者：22名

◇Cコース

視察先：相模原市南清掃工場（相模原市南区麻溝台1524-1）

特徴：市内で収集した一般ごみと事業系ごみ、粗大ごみの破砕選別で発生する可燃物を焼却処理。焼却炉の形式は流動床式ガス化溶融炉で、処理能力は日量525トン（175トン×3炉）。処理に伴う熱を近隣の施設に供給する他、最大出力1万キロワットの蒸気タービンによる廃棄物発電を行ない需要の高い昼間に集中的に売電している。



参加者：27名

②3R推進展示コーナー

3R推進全国大会会場エントランスホールでは3R推進展示コーナーが設けられ、相模原市の市制60周年記念展示（写真右）を始め主催者による展示、3R推



進団体連絡会の8団体、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会、持続可能な社会をつくる元気ネット、WE21ジャパン、セカンドハーベスト・ジャパン、日本フードエコロジーセンターなど関連団体・企業の展示が行われた。また、平成26年度3R促進ポスターコンクール入賞作品のパネル展示も行われた。

大会記念式典の開会前には、小里環境副大臣、加山市長らが見学した。





小里環境副大臣、加山
市長らも見学

③相模原市リサイクルフェア 2014

「相模原市市制施行 60 周年記念リサイクルフェア 2014」（主催：相模原市リサイクルフェア実行委員会 2014）が、3 R 推進全国大会に先立つ 10 月 19 日（日）10 時から 15 時まで、相模原麻溝公園で開催され、フリーマーケットや会場内での小型家電回収、市のキャラクター「分別戦隊 シゲンジャー 銀河」による資源分別の周知などのほか、トークショーなどが行われた。



④第9回3R推進関東地方大会

環境省関東地方環境事務所は、10月19日に相模原市立相模原淵野辺公園で開催された相模原市リサイクルフェア2014と10月29日開催の第9回3R推進全国大会併設の3R推進展示コーナーにブースを出展して3R推進関東地方大会を開催した。



2. 3R促進ポスターコンクール

「循環型社会」の実現のために各種制度の適正な運用と併せてごみの減量とリサイクルの促進に向けて、広く国民に対してその意義を啓発することが何より重要となっており、3R促進ポスターコンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考することにより、「循環型社会」の実現の啓発に資することを目的として、環境省と3R活動推進フォーラムが毎年実施してきた。平成26年度の募集は小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の4部門で行われ、絵としての出来栄え、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度の観点から、各部門で最優秀作品1点、優秀作品3点、佳作10点を選定した。表彰式は第9回3R推進全国大会記念式典で行われ、最優秀賞受賞者の4名に小里環境副大臣より表彰状が授与された。

(1) 応募状況

平成26年6月2日付環廃企発第1406025号環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長名で各都道府県知事あて「平成26年度3R促進ポスターコンクールの実施について」が通知され、都道府県を通して全国の小、中学校を対象に3Rをテーマとしたポスターの募集が行われた。

締切日の9月12日（金）（郵送、消印有効）までに、3R活動推進フォーラムに送付された応募総数は、小学生低学年875点、小学生中学年2,601点、小学生高学年3,5816点、中学生3,232点、総計10,289点であった。（都道府県別・部門別応募数一覧表参照）

(2) 審査

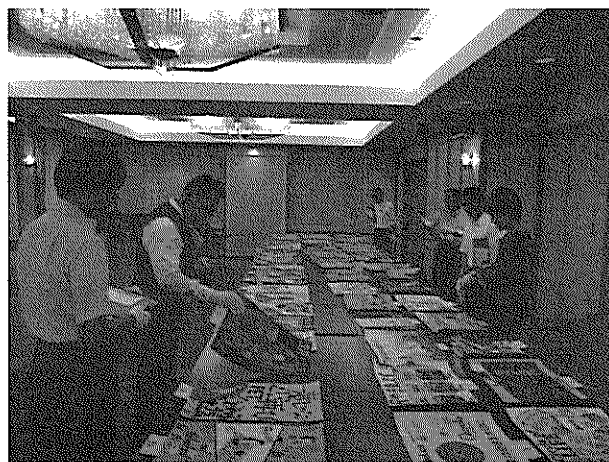
応募作品は環境省廃棄物・リサイクル対策部長通知に示された3R促進ポスターコンクール実施要領に則り、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるものなど規定に外れるもの、あるいは3Rのキャッチコピーのないものなどを除く粗選別を実施したのち、2回の審査を経て選定された。

1) 一次審査

- 日時 9月29日（火）13:00～17:30
- 会場 （公財）廃棄物・3R研究財団会議室
- 審査員 牟田幸秀東京都現代美術館学芸員
- 選定数 小学生低学年の部46点
小学生中学年の部50点
小学校高学年の部55点
中学生の部59点

2) 二次審査

- 日時 10月2日（木）14:30～17:30
- 会場 法曹会館3階 富士の間
- 審査委員 6名
- 選定数 一次審査で選定された作品から、部門ごとに、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選定された。



二次審査

審査委員名簿

氏 名	所 属
牟田行秀	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館学芸員
三浦佳子	消費生活コンサルタント（一般社団法人日本冷凍食品協会広報部長）
國分重隆	全国小中学校環境教育研究会副会長（新宿区立鶴巻小学校校長）
高見晃二	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課課長補佐
玉井和仁	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室係長
藤波博	3R活動推進フォーラム専任理事

（３）表彰等

各部門の最優秀受賞者には、平成 26 年 10 月 29 日（木）に相模原市内で開催された第 9 回 3 R 推進全国大会式典において表彰状が授与されるとともに、入賞作品は会場内でパネル展示された。



平成26年度3R促進ポスターコンクール部門別・県別応募数

No.	都道府県	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	計
1	北海道	0	10	0	0	10
2	青森県	0	1	3	11	15
3	岩手県	0	0	8	2	10
4	宮城県	4	35	92	156	287
5	秋田県	0	0	0	1	1
6	山形県	4	21	36	21	82
7	福島県	2	8	29	35	74
8	茨城県	67	180	271	225	743
9	栃木県	55	135	192	84	466
10	群馬県	50	281	263	574	1,168
11	埼玉県	80	136	222	94	532
12	千葉県	28	163	159	33	383
13	東京都	5	21	31	49	106
14	神奈川	11	41	44	11	107
15	新潟県	8	3	5	1	17
16	富山県	0	0	0	0	0
17	石川県	1	11	11	5	28
18	福井県	13	30	50	64	157
19	山梨県	4	11	1	8	24
20	長野県	1	7	35	19	62
21	岐阜県	4	15	20	70	109
22	静岡県	13	48	76	132	269
23	愛知県	432	1,034	1,592	883	3,941
24	三重県	0	0	0	18	18
25	滋賀県	0	1	1	32	34
26	京都府	1	1	1	0	3
27	大阪府	11	121	20	18	170
28	兵庫県	5	17	33	180	235
29	奈良県	1	4	16	5	26
30	和歌山県	0	1	2	4	7
31	鳥取県	0	0	0	14	14
32	島根県	0	0	0	2	2
33	岡山県	2	10	12	17	41
34	広島県	5	27	16	51	99
35	山口県	2	5	14	7	28
36	徳島県	7	14	35	52	108
37	香川県	24	66	125	127	342
38	愛媛県	20	73	93	69	255
39	高知県	0	0	0	0	0
40	福岡県	0	0	0	0	0
41	佐賀県	3	18	23	25	69
42	長崎県	1	0	2	5	8
43	熊本県	3	8	14	36	61
44	大分県	0	8	0	6	14
45	宮崎県	4	23	14	21	62
46	鹿児島県	4	13	20	42	79
47	沖縄県	0	0	0	23	23
	計	875	2,601	3,581	3,232	10,289

(4) 入賞作品

◆最優秀賞

小学生低学年の部



栃木県佐野市立
天明小学校 2 年生

小学生中学年の部



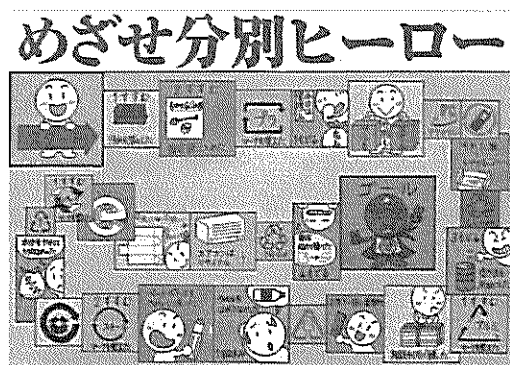
香川県高松市立
一宮小学校 3 年生

小学生高学年の部



神奈川県高座郡寒川町立
小谷小学校 6 年生

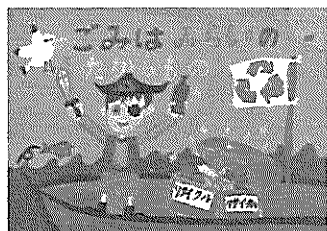
中学生の部



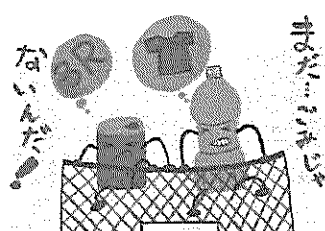
宮城県多賀城市立
多賀城中学校 3 年生

小学生低学年(1・2年)の部

◆優秀賞



茨城県小美玉市立
小川小学校 2年



香川県善通寺市立
筆岡小学校 1年



愛媛県伊予郡松前町立
北伊予小学校 2年

◆佳作



茨城県鉾田市立
旭東小学校 2年



徳島県吉野川市立
鴨島小学校 1年



愛知県安城市立
三河安城小学校 1年



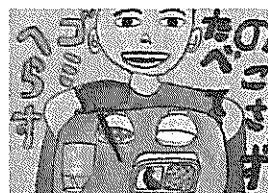
愛知県安城市立
桜林小学校 2年



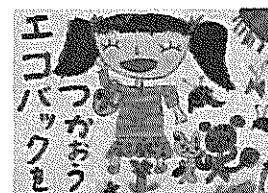
愛知県半田市立
宮池小学校 1年



愛媛県上浮穴郡久万高原町立
畑野川小学校 1年



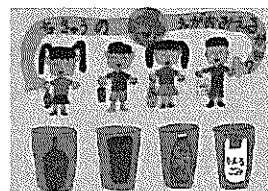
茨城県下妻市立
総上小学校 2年



愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校 1年



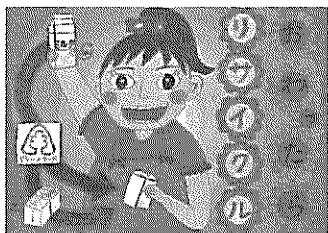
愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校 2年



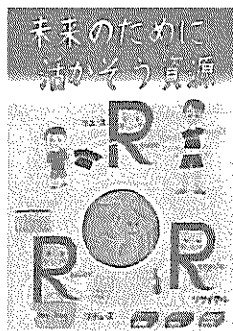
愛媛県伊予郡松前町立
岡田小学校 2年

小学生中学年(3・4年)の部

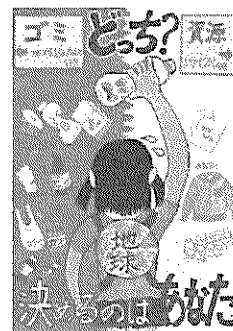
◆優秀賞



栃木県小山市立
乙女小学校 4年



福井県越前市立
花筐小学校 4年

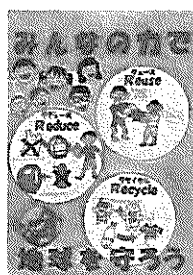


愛知県稲沢市立
大里西小学校 3年

◆佳作



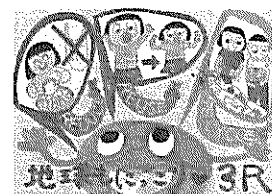
愛知県犬山市立
楽田小学校 4年



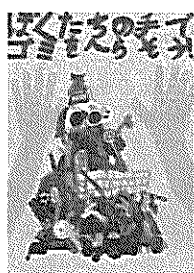
愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校 4年



群馬県伊勢崎市立
殖蓮小学校 4年



愛知県碧南市立
新川小学校 3年



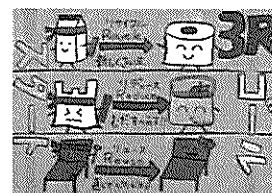
栃木県矢板市立
東小学校 4年



千葉県茂原市立
茂原小学校 4年



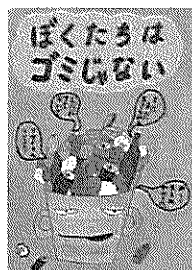
群馬県伊勢崎市立
赤堀南小学校 3年



愛知県知多郡東浦町立
卯ノ里小学校 4年



茨城県結城市立
結城西小学校 4年



千葉県旭市立
中央小学校 4年

小学生高学年(5・6年)の部

◆優秀賞



栃木県下野市立
国分寺小学校 6年

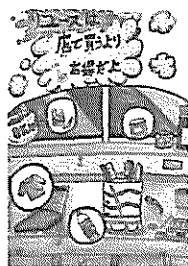


愛媛県伊予郡松前町立
北伊予小学校 6年

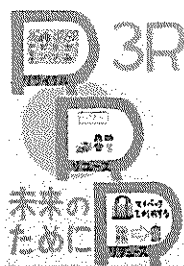


東京都目黒区立
東山小学校 6年

◆佳作



茨城県牛久市立
奥野小学校 6年



栃木県足利市立
毛野小学校 6年



愛知県西尾市立
中畑小学校 5年



愛知県安城市立
今池小学校 6年



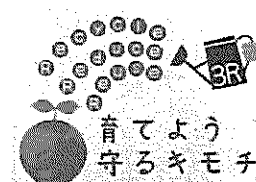
千葉県長生郡睦沢町立
瑞沢小学校 5年



茨城県鉾田市立
上島西小学校 6年



愛知県大府市立
大府小学校 5年



愛知県犬山市立
犬山西小学校 6年



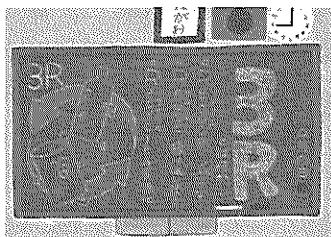
福島県いわき市立
泉小学校 6年



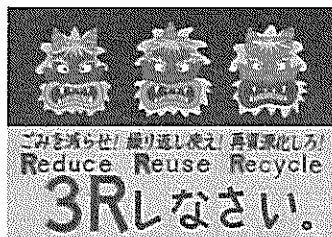
兵庫県加古川市立
東神吉小学校 6年

中学生の部

◆優秀賞



愛知県安城市立
篠目中学校 2 年

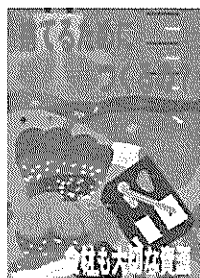


愛知県豊橋市立
羽田中学校 3 年

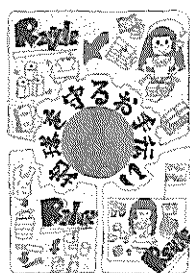


愛知県安城市立
安祥中学校 1 年

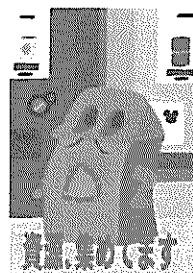
◆佳作



静岡県袋井市立
浅羽中学校 3 年



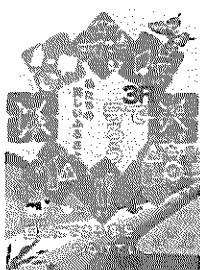
愛知県東海市立
横須賀中学校 1 年



静岡県袋井市立
浅羽中学校 3 年



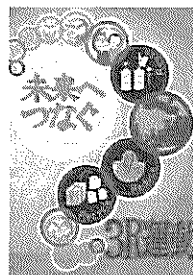
愛知県豊橋市立
羽田中学校 3 年



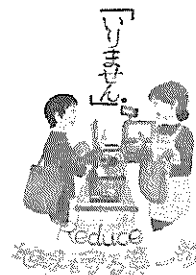
愛媛県伊予郡松前町立
岡田中学校 3 年



福島県いわき市立
泉中学校 2 年



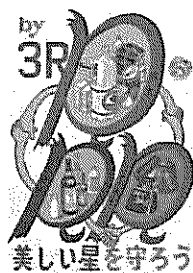
愛知県安城市立
東山中学校 2 年



群馬県伊勢崎市立
境北中学校 2 年



愛知県安城市立
安城南中学校 2 年



宮城県遠田郡美里町立
不動堂中学校 1 年

(5) 実施要領等

平成26年度3R促進ポスターコンクール実施要領

1. 目 的

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動が続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R(廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけにするとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主 催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集区分

作品の募集は以下の区分ごとに行う。

- ・小学生低学年の部(1年生、2年生)
- ・小学生中学年の部(3年生、4年生)
- ・小学生高学年の部(5年生、6年生)
- ・中学生の部

4. 応募規格、応募方法等

(1) 応募規格

- ① 作品(ポスター)のサイズは、四つ切り画用紙(380mm×540mm)又はB3版(364mm×515mm)とし、規格外の応募は、無効とする。
- ② 作品は手描きとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品(糊等を使用して張り付けたもの、切り絵等)は無効とする。

- ③ 応募作品は、循環型社会の構築に向けて、3 R（廃棄物等のリデュース<Reduce>、リユース<Reuse>、リサイクル<Recycle>）への広範な理解をより一層深めるという観点から、
- ・ 絵画としての評価
 - ・ 3 Rに関するキャッチコピー
 - ・ ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査する。このため、地球温暖化問題や水の節約など3 Rとは異なったテーマでの応募は無効とする。
- また、英語のつづりの間違い、誤字等があった場合も無効とする。
- ④ 応募は未発表のオリジナル作品に限る。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合がある。

(2) 応募方法等
別に定める。

5. 審査方法及び審査基準
別紙のとおりとする。

6. 賞の授与
募集区分ごとに以下の賞を授与する。

最優秀賞	1 点	賞状
優秀賞	3 点	賞状
佳作	1 0 点	賞状

7. 入賞作品の決定及び通知
入賞作品は、5. に定める審査方法を経て環境大臣が決定する。また、入賞の通知は環境省及び3 R活動推進フォーラムにて行う。

8. 表彰方法
最優秀賞については、毎年10月に開催予定の「3 R推進全国大会」において、環境大臣表彰を行うこととする。
優秀賞及び佳作については、入賞者の属する学校に賞状を送付することによって、当省による表彰に代えることとする。

9. その他留意事項
応募作品は返却しないものとし、応募作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属するものとする。
入賞作品は、主催者（主催者が認める新聞等を含む。）が作成する広報用のポスター、パンフレット等において作者の氏名、学年及び学校名とともに掲載する等により、3 R推進活動等のPR用として活用する。

事 務 連 絡
平成 2 6 年 6 月 2 日

各都道府県 3 R 促進ポスターコンクール
担当者 殿

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室

平成 2 6 年度 3 R 促進ポスターコンクールの応募方法等について

廃棄物・リサイクル行政の推進につきましては、かねてより御高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記については、平成 2 6 年 6 月 2 日付け環廃企発第 1406025 号（別添）により依頼したところでありますが、「平成 2 6 年度 3 R 促進ポスターコンクール実施要領」の「4. （2）応募方法等」につき、下記のとおり定めたので、御留意の上応募していただくよう、管内の市町村への周知方よろしくお願いいたします。

記

1. 応募方法

（1）作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付すること。（記入された個人情報が入賞者への連絡にのみ使用します。）

（2）作品の応募数については、1 学校につき下記の募集区分ごとに 1 0 点以内とします。

（3）作品は、折ったり、丸めたりしないこと。

2. 作品の提出期限等

市町村におかれましては、作品（ポスター）を募集区分ごとに取りまとめの上、「3 R 活動推進フォーラム」へ平成 2 6 年 9 月 1 2 日（金）までに提出（消印有効）して下さい。（提出期限を越えたものはすべて無効とします。）

また、併せて市町村におかれましては、別紙 2 により「応募一覧表」を作成の上、募集区分ごとの作品の提出数を平成 2 6 年 9 月 1 0 日（水）までに都道府県に報告して下さい。

○提出先：

〒130-0026

東京都墨田区両国 3 丁目 2 5 - 5 J E I 両国ビル 8 F

公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団内 3 R 活動推進フォーラム 宛

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

3. 作品の応募部数の報告

都道府県におかれましては、県内の各市町村から（１）により報告を受けた別紙２の「応募一覧表」を集計の上、県全体の作品の提出数を別紙１及び市町村から提出された別紙２の（写）とともに、平成２６年９月１２日（金）までに「３Ｒ活動推進フォーラム」まで報告（e-mail または FAX）して下さい。

なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付しましたので、御確認ください。

4. ポスターコンクールの広報

市町村において、各市町村内の小・中学校等に対して「ポスター」募集の広報等を実施される場合は、別紙「実施要領」を御活用下さい。

5. その他

近年、英語のつづり間違い、誤字等が散見されます。その場合、応募は無効となりますのでくれぐれも御注意下さい。

また、３Ｒに関する情報については、以下 URL をご参照ください。

３Ｒ活動推進フォーラム HP (<http://3r-forum.jp>)

【参考】

（平成 25 年度の応募実績）

	25 年度
小学校低学年の部（１、２年生）	954
小学校中学年の部（３、４年生）	2,723
小学校高学年の部（５、６年生）	3,064
中学校の部	3,637
計	10,378

別紙様式

ふりがな 氏 名			
年 齢		学 年	
作品コメント (50文字以内で、作品 にこめられた環境への 思いなどを書いてくだ さい。)			
ふりがな 学 校 名			
ふりがな 学校の住所	〒		
学校の電話番号			

*本票は、必要事項を記入の上、作品（ポスター）の裏面に貼って下さい。
 *応募規格に合わないもの（手描きでないもの、つづり間違いのあるもの等）
 は無効になります。応募規格は必ず確認して下さい。

平成26年度3R促進ポスターコンクールの審査方法及び審査基準について

1. 審査方法

(1) 形式審査

応募ポスターのうち、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるもの、3Rに関するキャッチコピーのないものなど「平成26年度3R促進ポスターコンクール実施要領」の「5. (1) 応募規格」に定める規格に該当しないものを除く。

(2) 第一次審査

各募集区分ごとに、外部審査委員一名による第一次審査を行い、各部門ごとに50点程度を選定する。

(3) 第二次審査

7名の審査委員が無記名で10点選定し、その結果、高得点を得た順に最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選定する。

一回で決まらなかった場合は、同点のものについて、再度、審査委員の協議により選定を行う。

2. 審査委員

小中学校のポスターコンクール等の審査の経験があり、美術館学芸員の資格等を有する有識者を構成委員とする。

3. 審査基準

審査に当たっては、絵画としての評価、3Rのキャッチコピー及びポスターとしてのデザイン性、アピール度の3点から総合的に選定を行うものとする。

(1) 絵画としての評価

「子供らしく創造性に富んでいる」

「描こうとしていることがはっきりしている」

「よく考えてユニークに表現している」

(2) 3Rに関するキャッチコピー

「斬新で人の注意をひく」

「主張が明確である」

「3Rのコンセプトが入っている」

(3) ポスターとしてのデザイン性、アピール度

「ポスターとして人の目をひく」

「ユーモアがあり好感が持てる」

「子供らしさが出ている」

3. 平成26年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

(1) 当フォーラムからの推薦と受賞

環境省が実施する循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体を表彰するもので、平成26年度では、企業8件、団体7件および個人1件の計16件が受賞となった（受賞者一覧は34ページに掲載）。

この「循環型社会形成推進功労環境大臣表彰」は、平成18年7月7日環廃対発第060707002号環境大臣通知による実施要領（別表参照）に基づき、3R活動推進に功労のあった個人及び団体、並びに3R活動優良企業を表彰するもので、被表彰者決定の手続きについては、「被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。被表彰者の推薦については、（中略）毎年7月1日までに大臣あて行うものとする。」とされている。

平成26年度の3R活動推進フォーラムの推薦では、企業3件とが受賞となった。

当フォーラムからの受賞者は以下の通り（カッコ内は推薦団体）。

○当フォーラム推薦による受賞

（企業）

サントリー食品インターナショナル株式会社（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）

株式会社ヤクルト本社（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）

因幡環境整備株式会社（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）

(2) 表彰式と受賞者の功績

平成26年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は10月29日（水）に相模原市内で開催された第9回3R推進全国大会で表彰式が行われた（写真）。



循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

（1）3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

（2）3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

（3）3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

（中略）

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

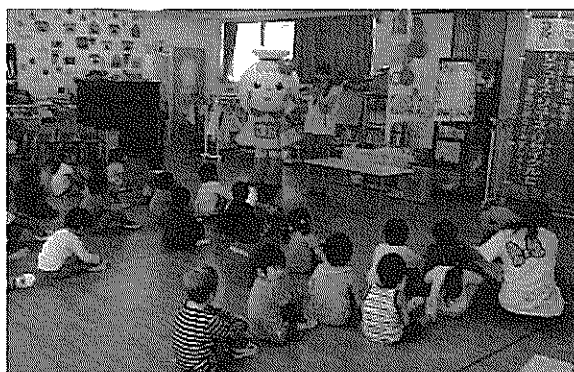
表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

4. 環境にやさしい買い物キャンペーン

環境省、経済産業省と3R活動推進フォーラムは10月1日～31日の期間、「平成26年度環境にやさしい買い物キャンペーン」を共同実施した。これは、循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的とするもので、キャンペーン期間中、消費者に対して、①買い物袋の持参②簡易包装への協力③環境配慮型商品の購入④量り売り商品の購入、等と呼ばかけるとともに、所管内にある又は取引関係のある流通事業者、小売事業者等に対して、①買い物袋の持参のPR②包装の簡易化③環境配慮型商品の積極的な販売④量り売りによる商品の販売、等と呼ばかけた。

キャンペーンの実施に当たっては、ポスターデザイン3種と統一デザインの電子データが、参加都道府県及び流通事業者に送付された。参加自治体は47都道府県、流通事業者は49社56,218店舗（実施意向調査結果による）となった。

各地の取組から



幼稚園での3R啓発活動（岩手県）



マイバッグをつくろうキャンペーン（東京都）



ボランティアによるおもちゃの病院（福井県）



マイバッグの持参の呼びかけ（奈良県）



イベントでの啓発（岡山県）



マイバッグ持参の呼びかけ（香川県）

(1) 参加都道府県

都道府県	キャンペーン名称	担当部課名
北海道	3 R 推進キャンペーン	環境生活部環境局循環型社会推進課
青森県	3 R 推進・環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部環境政策課循環型社会推進グループ
岩手県	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部資源循環推進課
宮城県	平成26年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」	環境生活部循環型社会推進課
秋田県	レジ袋削減・マイバッグ推進運動	生活環境部温暖化対策課調整・省エネルギー班
山形県	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境エネルギー部循環型社会推進課
福島県	マイバッグ推進デーキャンペーン	生活環境部環境共生課
茨城県	3 R 推進キャンペーン	生活環境部廃棄物対策課
栃木県	マイ・バッグ・キャンペーン	環境森林部地球温暖化対策課環境学習・保全活動担当
群馬県	環境にやさしい買い物スタイル普及促進	環境森林部環境政策課
埼玉県	マイバッグ・マイボトル利用促進運動	環境部資源循環推進課一般廃棄物・リサイクル担当
千葉県	環境にやさしい買い物キャンペーン～ちばエコスタイル～	環境生活部資源循環推進課事業推進班
東京都	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境局資源循環推進部計画課
神奈川県	レジ袋削減マイバッグキャンペーン（持っています エコの心とマイバッグ）	環境農政局環境部資源循環課サイクルグループ
新潟県	平成26年度 3 R キャンペーン	県民生活・環境部消費者行政課（環境にやさしい買い物運動実行委員会事務局）
富山県	環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境文化部県民生活課消費生活班
石川県	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部温暖化・里山対策室
福井県	環境にやさしい買い物キャンペーン	安全環境部循環社会推進課
山梨県	環境にやさしい買い物キャンペーン	森林環境部森林環境総務課環境活動推進担当
長野県	平成26年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部環境政策課
岐阜県	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	環境生活部廃棄物対策課
静岡県	環境にやさしい買い物キャンペーン	くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課資源循環班
愛知県	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部環境活動推進課調整・環境配慮行動グループ
〃	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	〃
三重県	3 R 推進キャンペーン	環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課
滋賀県	環境にやさしい買い物キャンペーン	琵琶湖環境部循環社会推進課ごみゼロ支援担当
京都府	クリーンリサイクル運動	文化環境部環境・エネルギー局循環型社会推進課
大阪府	平成26年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」	環境農林水産部みどり・都市環境室地球環境課環境活動推進グループ
兵庫県	地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン	農政環境部環境創造局環境政策課
奈良県	マイバッグキャンペーン	くらし創造部景観・環境局環境政策課
和歌山県	平成26年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部環境政策局環境生活総務課
鳥取県	とっとり環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境部循環型社会推進課
島根県	マイバッグ利用推進啓発	環境生活部環境政策課低炭素・循環型社会推進スタッフ
岡山県	環境にやさしい買い物キャンペーン（岡山県統一ノーレジ袋デー、おかやまマイバッグキャンペーン）	生活環境部循環型社会推進課資源循環推進班
広島県	「ひろしま環境の日」一斉行動（買い物にはマイバッグを持参しよう！）	環境県民局環境部環境政策課環境活動推進グループ
山口県	平成26年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部廃棄物・リサイクル対策課
徳島県	マイバッグでお買い物隊持参キャンペーン	県民環境部環境首都課（分室）
香川県	買い物でエコ！キャンペーン2014	危機管理総局くらし安全安心課（環境にやさしい買い物推進協議会事務局）
愛媛県	環境にやさしい買い物キャンペーン	県民環境部 環境局循環型社会推進課 計画推進係
高知県	(1) 「男も（女も）持つぞ！マイバッグ」キャンペーン2014 (2) スーパーマーケット対抗レジ袋削減コンテスト2014	林業振興・環境部新エネルギー推進課（高知県地球温暖化防止県民会議県民部会事務局）
福岡県	マイバッグキャンペーン	環境部循環型社会推進課
佐賀県	マイバッグキャンペーン	くらし環境本部 循環型社会推進課 3 R 推進担当
長崎県	ながさきマイバッグキャンペーン	環境部未来環境推進課循環・快適環境班
熊本県	熊本県マイバッグキャンペーン	環境生活部環境局廃棄物対策課
大分県	マイバッグを持ってお買い物に行こう♪キャンペーン（大分県マイバッグキャンペーン）	生活環境部地球環境対策課サイクル推進班
宮崎県	みやざきマイバッグキャンペーン	環境森林部循環社会推進課企画・リサイクル担当
鹿児島県	鹿児島県マイバッグキャンペーン	環境林務部廃棄物・リサイクル対策課
沖縄県	平成26年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部環境整備課一般廃棄物班

2) 参加流通事業者

●日本チェーンストア協会

No.	事業者名	キャンペーン名称	担当部署
1	イオン株式会社	イオンマイバッグデザインコンテスト	グループ環境・社会貢献部
2	株式会社イズミ	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務課
3	株式会社イトーヨーカ堂	環境にやさしい買い物キャンペーン	株式会社セブン&アイ・ホールディングス
4	株式会社いなげや	環境にやさしい買い物キャンペーン	社長室
5	株式会社エコス	環境にやさしい買い物キャンペーン	秘書室
6	株式会社京成ストア	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務人事部
7	株式会社ダイエー	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部
8	株式会社東急ストア	環境にやさしい買い物キャンペーン	経営統括室総務
9	マックスバリュ東海株式会社	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部
10	ユニー株式会社	グリーン購入キャンペーン	グループ環境社会貢献部
11	株式会社ヨークベニマル	環境にやさしい買い物キャンペーン	人事部総務室
12	株式会社ライフコーポレーション	環境にやさしい買い物キャンペーン	社会・環境推進部

●日本百貨店協会

1	株式会社一畑百貨店	レジ袋削減キャンペーン	総務人事部
2	株式会社小田急百貨店	マイバッグキャンペーン	総務部
3	株式会社金沢名鉄丸越百貨店	マイバッグ利用促進キャンペーン	総務人事部
4	株式会社近鉄百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務本部CSR推進部
5	株式会社高知大丸	スマートラッピングキャンペーン	営業推進部
6	株式会社札幌丸井三越	「スマートラッピング」キャンペーン	総務部
7	株式会社ジェイアール東海高島屋	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部 総務グループ
8	株式会社下関大丸	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務推進部
9	株式会社そごう・西武	環境にやさしい買い物キャンペーン	CSR推進室
10	株式会社大丸松坂屋百貨店	なし	総務部
11	株式会社高島屋	環境にやさしい買い物キャンペーン	本社CSR推進室
12	株式会社東急百貨店	エコポイント ダブルプレゼントキャンペーン	総務人事統括室
13	株式会社東武宇都宮百貨店	エコ包装推進月間	総務部
14	株式会社東武百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン月間	総務部
15	株式会社鳥取大丸	平成26年度環境にやさしい買い物	業務管理部 保安管財DV
16	株式会社浜屋百貨店	ながさきマイバッグキャンペーン	サービス推進部
17	株式会社藤崎	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務担当
18	株式会社福屋	スマートラッピング推進キャンペーン	営業本部
19	株式会社ブランタン銀座	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務推進部
20	株式会社ほの国百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	販売促進部企画課
21	株式会社丸広百貨店	マイバッグキャンペーン	総務部
22	株式会社三越伊勢丹ホールディングス	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務本部 業務推進部
23	株式会社宮崎山形屋	みやざきマイバッグキャンペーン	総務専門家
24	株式会社ヤナゲン	-	営業推進兼販売促進
25	株式会社山形屋	環境にやさしい買い物キャンペーン(マイバッグキャンペーン)	総務部

●一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会

1	国分グローサースチェーン株式会社	レジ袋削減キャンペーン	※
2	株式会社ココストア	レジ袋削減キャンペーン	※
3	株式会社サークルKサンクス	レジ袋削減キャンペーン	※
4	株式会社スリーエフ	レジ袋削減キャンペーン	※
5	株式会社セイコーマート	レジ袋削減キャンペーン	※
6	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	レジ袋削減キャンペーン	※
7	株式会社ファミリーマート	レジ袋削減キャンペーン	※
8	株式会社ポプラ	レジ袋削減キャンペーン	※
9	ミニストップ株式会社	レジ袋削減キャンペーン	※
10	山崎製パン株式会社(デリーヤマザキ)	レジ袋削減キャンペーン	※
11	株式会社ローソン	レジ袋削減キャンペーン	※

●その他

1	株式会社良品計画(無印良品)	FUKU-FUKUプロジェクト	企画室
---	----------------	-----------------	-----

参加流通事業者数 49事業者

(※一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会まとめ)

(3) 実施要領

平成 26 年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施要領

1. 趣旨

循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的として、「環境にやさしい買い物キャンペーン」ほか 3 R の推進に資するキャンペーンを 3 R 推進月間の取組の一環として実施し、国民への環境教育等を推進する。

実施に当たっては、都道府県及び流通事業者等による取組を尊重しつつ、同一の時期に同一の趣旨の取組を行うことにより、各主体による取組を一層効果的なものとする 것을目指す。

2. 実施期間

原則として、平成 26 年 10 月 1 日から平成 26 年 10 月 31 日までに行う。

3. キャンペーン参加者による取組

(1) キャンペーンの趣旨に賛同する都道府県、流通事業者等は、共同実施主体として、独自に「環境にやさしい買い物キャンペーン」ほか 3 R の推進に資するキャンペーンを実施する。

(2) 共同実施主体は、キャンペーン期間中、消費者に対して以下のような取組を呼びかける。

- ① 買い物袋の持参
- ② 簡易包装への協力
- ③ 環境配慮型商品の購入
- ④ 量り売り商品の購入

(3) また、所管内にある又は取引関係のある流通事業者、小売事業者等に対して以下のような取組を呼びかけるとともに、自ら実行できるものについて率先して取り組む。

- ① 買い物袋の持参の P R
- ② 包装の簡易化
- ③ 環境配慮型商品の積極的な販売
- ④ 量り売りによる商品の販売

4. キャンペーンに関する事務

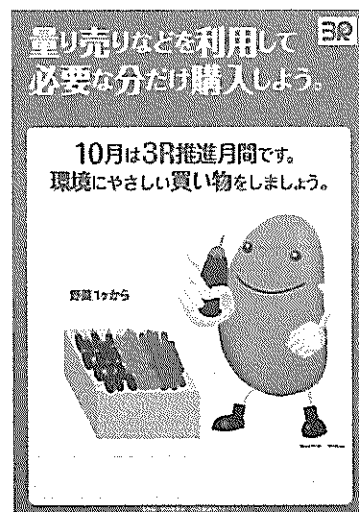
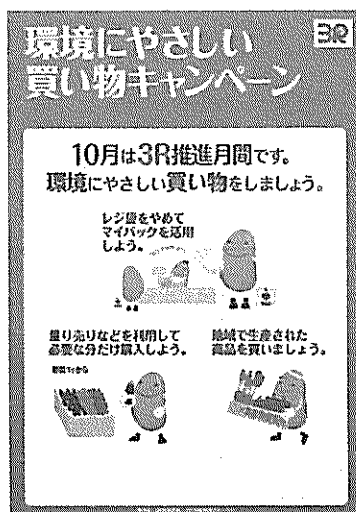
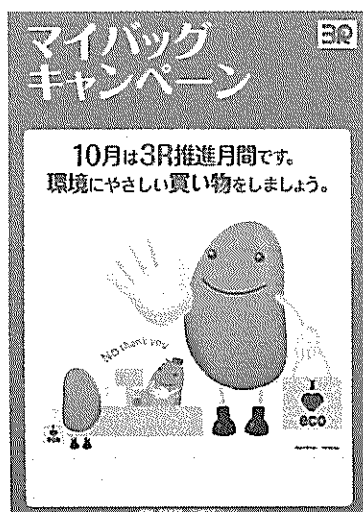
(1) キャンペーンの手務は、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会形成推進室が行う。

(2) 同室は、各都道府県の独自性を尊重しつつ、全国的な統一感を保つため、経済産業省及び 3 R 活動推進フォーラムと連携して、以下の取組を実施する。

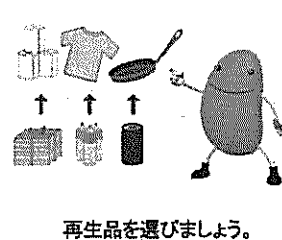
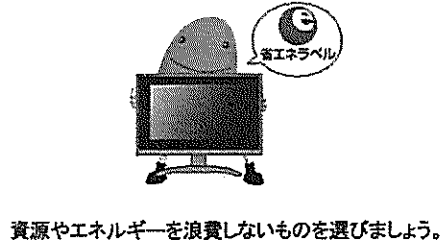
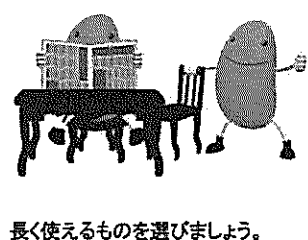
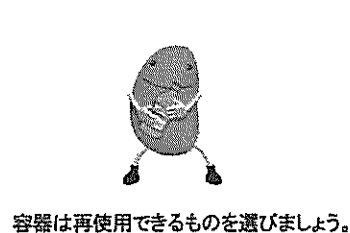
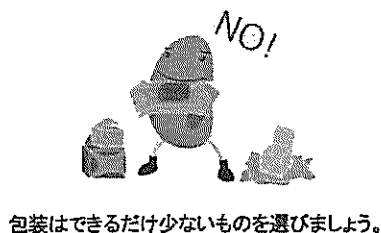
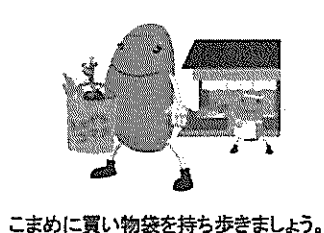
- ① 都道府県、流通事業者等共同実施主体への呼びかけ、連絡調整等
- ② キャンペーン用ポスターデザインの提供等、普及啓発のための素材の作成、提供等
- ③ キャンペーンの P R 活動（報道機関を通じた宣伝、環境省等実施主体の H P への掲載等）
- ④ 実施結果のとりまとめ及び公表

(4) こまめちゃんのポスター等

○ポスター



○「こまめちゃん」のキャラクターデザイン



5. 連携・協働事業

会員団体等と連携・協働して循環型社会形成推進セミナーを開催したほか、会員団体等が実施するセミナー等のイベントに後援あるいは協賛等の協力を行った。

(1) 循環型社会形成推進セミナー等の開催

3Rの一層の推進を図るため、地方自治体、NPO、業界団体などと連携して、3Rに関する課題をテーマに、会員団体等との連携セミナー等を11回にわたって開催した。

1) 環境省等との共催

環境省と3R活動推進フォーラムでは、現在取組が求められている3Rに関する課題をテーマに、全国6か所でセミナーを開催した。

連携先	名称	開催日	会場
静岡県	資源リサイクルフォーラム	平成26年10月16日	静岡市民文化会館
東京都	循環・3Rフォーラム～食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて～	平成27年1月15日	国際ファッションセンター
相模原市	循環・3Rセミナー～信頼と連携で実現するリサイクルの輪～	平成27年2月3日	相模女子大学グリーンホール
福井県	循環・3Rシンポジウム「食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて」	平成27年2月9日	福井市地域交流プラザ
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット	循環・3Rシンポジウム～資源循環や廃棄物のCO2削減について考える～	平成27年2月12日	さいたま市浦和コミュニティセンター
和歌山県	循環・3R推進セミナー～循環・3Rの社会形成に向けて、廃棄物のもったいないを考える～	平成27年3月11日	和歌山県自治会館

①平成26年10月16日（木）14:00～16:00

□名称：資源リサイクルフォーラム

□主催：環境省、静岡県、静岡県環境衛生自治推進協会連合会、3R活動推進フォーラム

□会場：静岡市民文化会館 中ホール

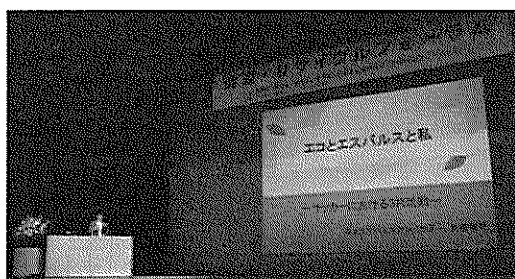
□内容：・講演「我が社の環境への取組み」 浜松ホトニクス株式会社

・事例発表「地域と共に楽しみながらエコ活動～地域資源を再認識する中から 見えるエコ活動と食育～」 ハートフルダイニングおんふらんす

・特別講演「エコとエスパルスと私～サッカーにおける3R活動～」

清水エスパルスアンバサダー 齊藤俊秀 氏

□参加者：約400名



齊藤氏

②平成27年1月15日（木）13:00～16:00

□名称：循環・3Rフォーラム～食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて～

□主催：環境省、東京都、3R活動推進フォーラム

□会場：国際ファッションセンター（KFC）2階ホール

□内容：

＜第1部＞ 基調講演「食品循環資源の利用状況と食品ロス削減の取組について」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長 庄子真憲氏

＜第2部＞事例発表

・事例発表1「世田谷区での食品ロス削減に向けた取組み」

世田谷区清掃・リサイクル部事業課普及啓発担当 阿部浩司氏

・事例発表2「食品リサイクルの手法と事業紹介」

株式会社日本フードエコロジーセンター代表取締役 高橋巧一氏

・事例発表3「フードバンク活動とその役割」

株式会社廃棄物工学研究所（フードバンク岡山）主任研究員 石坂 薫氏

・事例発表4「食品廃棄物の発生抑制とリサイクルの取組み」

株式会社エコス 秘書室長 境憲一郎氏

□参加者：75名



庄子氏

③平成27年2月3日（火）13:30～16:30

□名称：循環・3Rセミナー～信頼とリサイクルで実現するリサイクルの輪～

□主催：環境省、相模原市、3R活動推進フォーラム

□会場：相模女子大学グリーンホール「多目的ホール」

□内容：

＜第1部＞基調講演「循環・3Rの今後の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室室長補佐 櫻井義夫氏

＜第2部＞事例発表

・事例発表1「小型家電リサイクル法に基づく相模原市の取組」

相模原市環境経済局資源循環部資源循環推進課担当課長 井上康臣氏

・事例発表2「神奈川県における小型家電リサイクル推進の取組」

神奈川県環境農政局環境部資源循環課グループリーダー 樋口泰久氏

・事例発表3「小型家電リサイクルの諸相」

株式会社リーテムP I 事業推進部チームリーダー 菅間智義氏

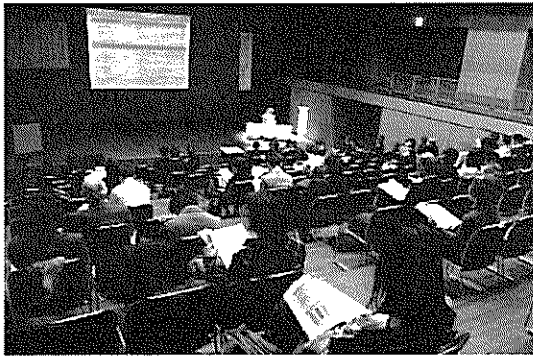
＜第3部＞100人パネル討論会

ファシリテーター

株式会社ダイナックス都市環境研究所所長 山本耕平氏

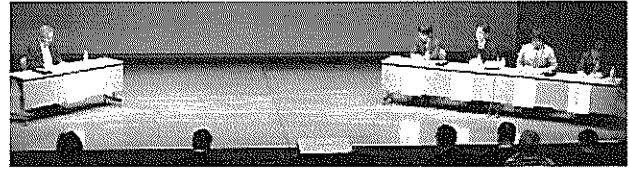
ナビゲーター 講演者・事例発表者

□参加者：67名



◀櫻井氏

▼100人パネル討論会



④平成 27 年 2 月 9 日（月） 13:00～16:10

□名称：循環・3Rシンポジウム「食品ロスと食品廃棄物の削減に向けて」

□主催：環境省、福井県、3R活動推進フォーラム

□会場：福井市地域交流プラザ研修室 601ABC

□内容：

<第1部> 基調講演「食品循環資源の利用状況と食品ロス削減の取組」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長

庄子真憲氏

<第2部> 話題提供

・話題1「福井県における食品ロス、食品廃棄物の現状」

福井県安全環境部循環社会推進課資源循環グループ主任

河寄昭子氏

・話題2「循環型社会づくりにおける主体間連携等について」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

・話題3「食品ループの現状と今後の課題」

ユニー株式会社業務本部環境社会貢献部長

百瀬則子氏

・話題4「食品関連廃棄物の削減に向けて」

福井県民生活協同組合組織NW支援部課長

高井健史氏

<第3部> パネルディスカッション

コーディネーター

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

パネリスト：講師、話題提供者

□参加者：130名



⑤平成 27 年 2 月 12 日（木） 13:00～16:35

□名称：循環・3Rシンポジウム～資源循環や廃棄物のCO₂削減について考える～

□主催：環境省、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3R活動推進フォーラム

□共催：さいたま市

□会場：さいたま市浦和コミュニティセンター 第15集会室

□内容：

<第1部> 基調講演「各リサイクル法の今後の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長 庄子真憲氏

<第2部> 話題提供「3R行動の見える化ツールの活用や地域活動事例等」

・話題1「市民、事業者、行政の連携による食や資源のエコライフ」

NPO法人川口市民環境会議代表理事 浅羽理恵氏

・話題2「リユース食器使用によるCO₂削減」

NPO法人スペース・ふう理事長 永井寛子氏

・話題3「雑紙の資源化による可燃ごみの削減」

熱海市市民生活部協働環境課生活環境室長 山田賢二氏

・話題4「さいたま市におけるごみ減量化の現状と課題」

さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課長 島村和久氏

<第3部> パネルディスカッション「資源循環やCO₂削減について」

コーディネーター：

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏

パネラー：講師、話題提供者



崎田氏

⑥平成27年3月11日（水）13:00～16:00

□名称：循環・3R推進セミナー

～循環・3Rの社会形成に向けて、廃棄物のもったいないを考える～

□主催：環境省、和歌山県、3R活動推進フォーラム

□会場：和歌山県自治会館 2階大会議室

□内容：

<第I部> 基調講演「循環・3R推進とリサイクル関連法の動向」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室

室長補佐

谷貝雄三氏

<第II部> 事例発表

・事例発表1「つれもて分別ごみ減量～美しい海・山・川の城下町わかやま～」

和歌山市市民環境局環境事業部一般廃棄物課企画班長

川原真己子氏

・事例発表2「もったいない～この和歌山の環境を未来に引き継ぐために～」

ふるさと倶楽部会長

白井忠氏

・事例発表3「リユースびんの大和茶（と、わ（to wa））」

World Seed 代表理事

岡見厚志氏

・事例発表4 「3 R推進と主体間連携の強化」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長

鬼沢良子氏

□参加者：46名



谷貝氏

2) 3 R活動推進フォーラムの自主事業による共催

①平成26年8月1日(金) 13:00~16:40

□名称：循環・3 Rシンポジウム～信頼と連携で共創する地域循環圏～

□主催：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3 R活動推進フォーラム

□会場：日比谷図書文化館 小ホール

□内容：

<第1部>基調講演

「循環型社会の形成に向けてー小型家電と食品リサイクル等ー」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長

庄子真憲氏

<第2部>話題提供

・話題1「横浜市における小型家電リサイクル」

横浜市資源循環局業務課 分別・リサイクル推進担当係長

佐々井正泰氏

・話題2「松本市における食品ロス削減の取り組み」

松本市市民環境部環境政策課 課長補佐

羽田野雅司氏

・話題3「神戸市環境共栄事業協同組合による食品リサイクルの新しい取り組み」

神戸市環境共栄事業協同組合 専務理事兼事務局長

澤田弘氏

<第3部>シンポジウム・参加者交流

・コーディネーター：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

3 R活動推進フォーラム副会長

崎田裕子氏

・パネリスト：講師、話題提供者



②平成26年9月5日(金) 13:10~16:20

□名称：平成26年度公益財団法人廃棄物・3 R研究財団、3 R活動推進フォーラム年次報告会

□主催：公益財団法人廃棄物・3 R研究財団、3 R活動推進フォーラム

□会場：江戸東京博物館 会議室

□内容：

- ・特別講演「廃棄物・リサイクル行政の現状と課題について」

環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長

和田篤也氏

- ・調査研究概要報告

- ①「災害廃棄物対策指針の策定」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 上席研究員

河村栄作氏

- ②「災害廃棄物処理等に関する情報プラットフォーム構築及び災害時マネジメント力向上方策」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 特別研究員

森朋子氏

- ③「地域防災拠点となる廃棄物処理施設におけるエネルギー供給方策」

前(公財) 廃棄物・3R研究財団 統括研究員

現日本環境安全事業(株) 事業部長

東幸毅氏

- ④「総合的な2Rシステムの構築に向けた調査・検討」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 上席研究員

夏目吉行氏

- ⑤「家庭系有害廃棄物(HHW)の現状把握と回収システム構築のための研究」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 調査部長

藤波博氏

- ⑥「RDFの現状と課題」

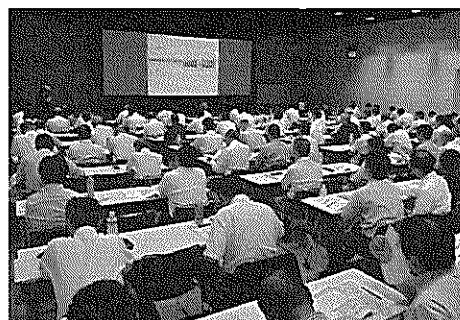
(公財) 廃棄物・3R研究財団客員研究員

渡辺洋一氏

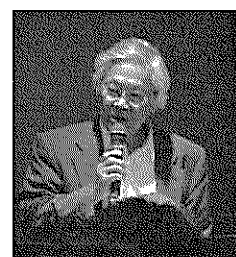
- ・総括

(公財) 廃棄物・3R研究財団理事長

田中勝氏



和田氏



田中氏

3) 3R推進団体連絡会との意見交換会共催

□名称：容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会

□主催：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

①第1回 平成26年7月25日(金) 13:00~16:45

□会場：JA長野県ビル 12階A会議室

□内容：

<第1部>基調講演・事例発表

- ・基調講演 関東学院大学教授

織朱實氏

- ・事例1 長野県環境部資源循環推進課廃棄物政策係

神林純也氏

- ・事例2 長野市環境部生活環境課係長

上原和久氏

- ・事例3 上田市エコ・サポート21 環境カウンセラー

栗田たか子氏

- ・事例4 3R推進団体連絡会幹事

久保直紀氏

＜第2部＞グループ討論

- ・ 3つのワーキンググループによる意見交換
- ・ 全体総括（グループ報告、全体報告）



織氏

②第2回 平成26年11月7日（金）13：00～16：45

□会場：ひめぎんホール本館6階会議室

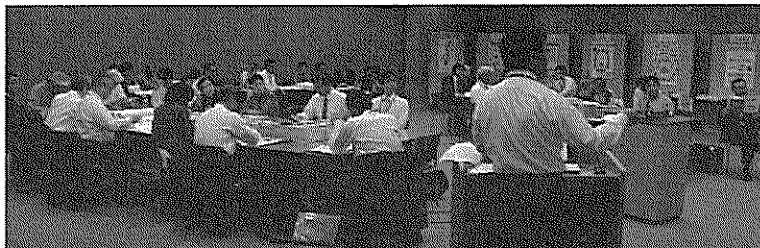
□内容：

＜第1部＞事例発表

- | | |
|---------------------------------|--------|
| ・ 事例1 愛媛県県民環境部環境局循環型社会推進課 主幹 | 大西亮一氏 |
| ・ 事例2 松山市環境部清掃課 副主幹 | 平田正次郎氏 |
| ・ 事例3 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長 | 鬼沢良子氏 |
| ・ 事例4 まつやまRe・再来館（りっくる） 館長 | 吉田啓二氏 |
| ・ 事例5 3R推進団体連絡会 幹事 | 加藤稔氏 |

＜第2部＞グループ討論

- ・ 3つのワーキンググループによる意見交換
- ・ 全体総括（グループ報告、全体報告）



大西氏

③第3回 平成27年2月20日（金）13：00～16：45

□会場：名古屋国際センター別館ホール

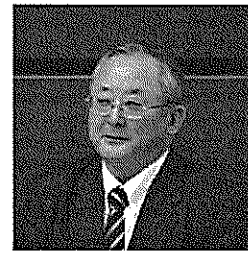
□内容：

＜第1部＞事例発表

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ・ 事例1. 名古屋市環境局ごみ減量部資源化推進室主査 | 笠本友作氏 |
| ・ 事例2 大垣市環境市民会議 事務局次長 | 奥田陽子氏 |
| ・ 事例3 あいちゴミ仲間ネットワーク会議代表 | 岩月宏子氏 |
| ・ 事例4 3R推進団体連絡会 幹事 | 久保直紀氏 |

＜第2部＞グループ討論

- ・ 3つのワーキンググループによる意見交換
- ・ 全体総括（グループ報告、全体報告）



久保氏

(2) 3R推進地方大会後援等の協力

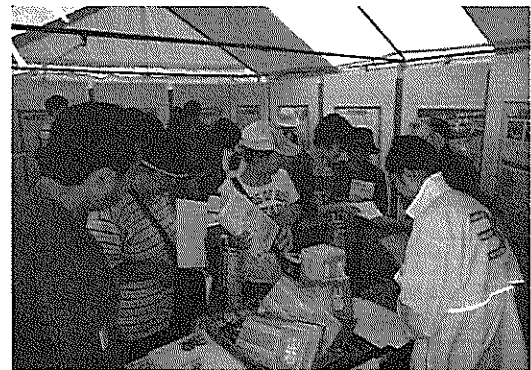
環境省地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に後援等の協力を行った。

1) 3R推進東北大会 in せんだい 2014

○日時：平成26年9月7(日) 10:00~15:00

○会場：エコフェスタ2014 会場内(仙台市青葉区勾当台講演市民広場)

○内容：ふろしきワークショップ(写真下左)、「役に立つ折り紙」体験コーナー、3Rクイズ(写真下右)、パネル展示等



2) 第9回3R推進関東地方大会

①相模原市リサイクルフェア2014

○日時：平成26年10月19日(日) 10:00~15:00

○会場：相模原市立相模原麻溝公園 水の広場・緑の広場

○内容：庄野真代トークショー、3Rを推進する元気な市民リーダーによる発表、ペットボトル分別ゲーム、水切り実演ゲーム等



②第9回3R推進全国大会 3R推進展示コーナー

○日時：平成26年10月29日(水) 13:15~17:00

○会場：第9回3R推進全国大会 3R推進展示コーナー
(杜のホールはしもと)

○内容：パネル展示等(写真右)

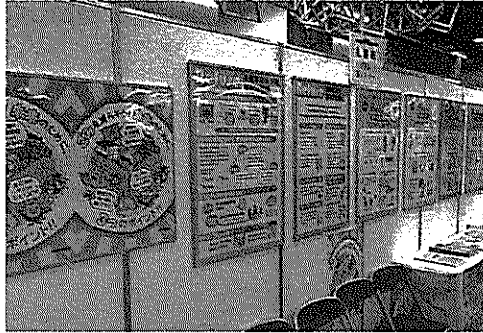


3) 平成 26 年度 3 R 推進北海道大会

○日程：平成 27 年 2 月 21 日（土）11：00～17：00

○会場：さっぽろ地下街オーロラタウン内オーロラプラザ

○内容：エコパフォーマンス、絵本読み聞かせ&もったいないトーク、もったいないトークセッション、パネル展示、チラシ等配布等



(3) その他の後援等

1) 後援

①第 9 回容器包装 3 R 推進フォーラム

○主催：3 R 推進団体連絡会

○開催期日：平成 26 年 12 月 15 日（月）～16 日（火）

○会場：品川区立総合区民会館きゅりあん

②建設副産物リサイクル広報ポスター

○実施主体：建設副産物リサイクル広報推進会議

○掲出期間：平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日

③2014 建設リサイクル技術発表会・技術展示会

○主催：建設副産物リサイクル広報推進会議中国地方建設副産物対策連絡委員会

○開催期日：平成 26 年 11 月 21 日（金）

○会場：広島県立広島産業会館 東展示館・西展示館

2) 協賛

①平成 26 年度環境衛生週間

○主唱：環境省、都道府県及び市町村

○期間：平成 26 年 9 月 24 日～10 月 1 日

②第 13 回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」

○主催：（公社）全国産業廃棄物連合会、（公財）日本産業廃棄物処理振興センター
（公財）産業廃棄物処理事業振興財団

○開催期日：平成 26 年 11 月 7 日（金）

○場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

3) 協力

①平成 26 年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」

○実施主体：環境省、内閣府、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省他 関係省庁、
都道府県等

○期間：平成 26 年 5 月 30 日（金）～6 月 5 日（木）

②第 7 回 3 R・低炭素社会検定

○主催：3 R・低炭素社会検定実行委員会

○試験日：平成 27 年 1 月 11 日（日）

4) 講師派遣

3 R・低炭素社会検定講習会講師（3 R・低炭素社会検定実行委員会主催）

○平成 26 年 11 月 16 日（日）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室

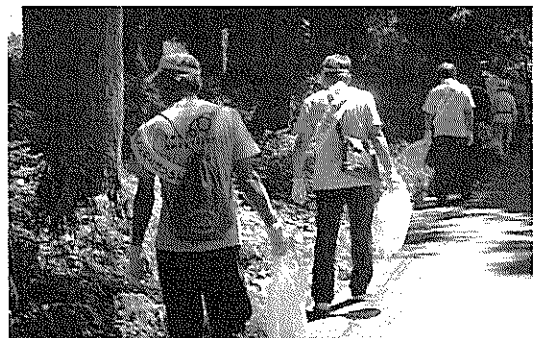
○平成 26 年 11 月 29 日（土）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室

5) 参加

散乱防止美化キャンペーン（スチール缶リサイクル協会主催）

○平成 26 年 7 月 12 日（土）栃木県日光市内及び宇都宮市内

栃木県日光市の日光杉並木街道で清掃活動及び JR 宇都宮駅での「あき缶のポイ捨て防止・地域美化推進への協力」の啓発活動に参加した。



○平成 26 年 11 月 1 日（土）静岡県裾野市内

静岡県裾野市富士山資料館（富士サファリパーク周辺）の国道 469 号線沿いでの清掃活動に参加した。



6. 広報・普及事業

(1) 展示会への出展

①エコライフ・フェア 2014 (写真上)

○開催日：平成 26 年 6 月 7 日 (土) ～8 日 (日)

○会場：都立代々木公園

②相模原市リサイクルフェア 2014 (写真下)

○開催日：平成 26 年 10 月 19 日 (日)

○会場：相模原麻溝公園

③平成 26 年度 (公社) 全国都市清掃会議秋季評議員会展示コーナー

○開催日：平成 26 年 10 月 23 日 (木)

○会場：長岡グランドホテル 2 階ロビー

(2) 出版物等の発行

①2014 年次報告書作成

3 R 活動推進フォーラムの平成 26 年度の事業を中心に報告書を作成し、会員等に送付するとともに、ホームページに掲載した。

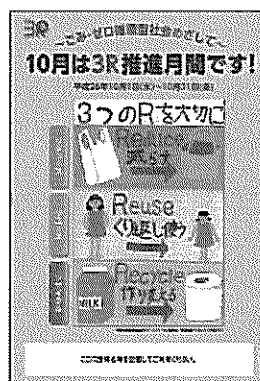
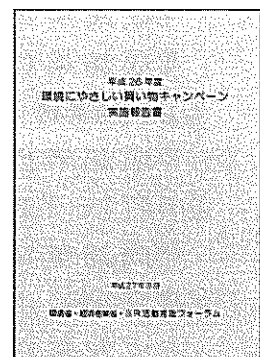
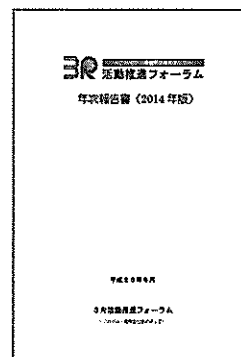
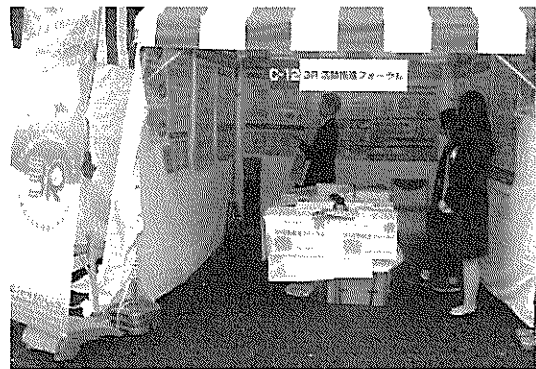
②平成 26 年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施報告書の作成

環境省、経済産業省と「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施、都道府県及び流通事業者の実施報告書を作成、全国都道府県、流通事業者等に送付するとともに、ホームページに掲載した。

(3) ポスターの作成・配布等

①環境省と 3 R 活動推進フォーラムでは、平成 26 年度 3 R 促進ポスターコンクール最優秀作品 4 点をデザインした 3 R 推進啓発ポスターを作成し、全国の都道府県等に配布した。(写真右)

②平成 25 年度 3 R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした 2 種類の平成 26 年度 3 R 推進 月間用のポスターデータを作成 (写真下) し、希望者に提供した。



(4) インターネットを活用した情報発信

① ホームページによる情報発信

ホームページに各種お知らせ、開催イベントの様態及び関連資料、発行済みの機関誌・メルマガ等を掲載した。

② メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月3回配信した。

③ 3R活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務報告などを事務局通信として4回配信した。

(5) 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

1) 記事

① 日刊工業新聞

平成26年10月10日（第9回3R推進全国大会告知）

② 環境新聞

平成26年10月29日3R推進月間特集（第9回3R推進全国大会告知）

平成26年11月5日3R推進全国大会開催

③ ウェイストマネジメント

平成26年10月25日（第9回3R推進全国大会告知）

平成26年11月5日3R推進全国大会開催

④ 月刊廃棄物

平成26年12月号3R推進全国大会開催

⑤ 月刊ウェイスト・リサーチ

平成26年12月号3R推進全国大会開催

⑥ 環境情報

平成26年11月11日3R推進全国大会開催

2) 広告

① 神奈川新聞

平成26年10月13日付第9回3R推進全国大会突き出し広告

② 環境新聞

平成26年10月22日付3R推進月間特集号企画5段1/2

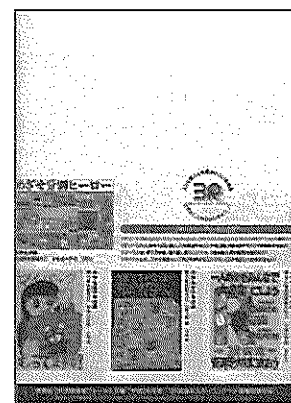
平成27年1月1日環境新聞新年特別号名刺広告

③ ウェスト・マネジメント

平成26年10月25日付第9回3R推進全国大会特集連名広告

(6) クリアファイルの作成・配布

平成26年度3R促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインしたクリアファイル（写真右）を作成、展示会等での3Rクイズのノベルティとして配布した。



7. ガイドラインに沿ったRマーク表示の普及促進

3R活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月に定めた再生紙普及のためのRマーク（再生紙マーク）について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等を併せて広報に努めた。

①ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載

②展示会等でのパネル展示による啓発普及

②問い合わせへの対応

Rマークについて、掲載方法や 掲載物等に関する電話はなどでの問い合わせ、教材などへの掲載方法についての問い合わせ などに対応した。



Rマーク (再生紙使用) マーク

1. 「Rマーク」とは

「Rマーク」は、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発をしていくためのシンボルマークとして定められました。

2. 「Rマーク」の表示に際しては

「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、申請や届出は不要で、誰でも自由に無料で使用できますが、表示に際しては、以下に十分注意してください。

- 古紙パルプ配合率は製紙メーカーや印刷会社とご確認の上、正しい数字を表示すること。
- 再生紙を使用した印刷物などに刷り込んで表示し、コーティング加工した紙や、他の素材と複合をした紙(段ボール等)に対しては使用しないこと。
- 表紙と中面で古紙パルプ配合率の違う紙を使用している場合は、両方の古紙パルプ配合率を表示すること。
- 古紙パルプ配合率を示した数値・文言、説明とあわせて表示すること。
- マークの形は崩さないこと。ただし、文字の大きさ、色は自由です。

3. 「Rマーク」の表示例

「Rマーク」は、「Rと古紙パルプ配合率を示す数値」と「古紙パルプ配合率〇〇%再生紙を使用」を組み合わせる表示してください。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

なお、平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされています。

この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。



3R活動推進フォーラム
ReDuce | ReUse | ReCycle

〒130-0026
東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 2F
財団法人「環境物産研究所」内
TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164
URL: <http://3r-forum.jp/>

Rマークの展示パネル

8. 会員サービスの充実

(1) 会員との連携・協働事業の実施

セミナーの開催、イベントへの後援等の協力を実施した。

(2) 会員情報の発信

メルマガ「3R・廃棄物ニュース」(月3回配信)により、会員の3Rに関する情報を発信した。

(3) 会員への資料提供

ホームページの会員ページにおいて、行政資料や3R活動推進フォーラム発行物の閲覧及び3R推進月間用ポスターデータのダウンロードサービスを提供した。

また、有料セミナーには会員割引を実施した。

(4) 事務局通信の配信

事務局の業務状況、お知らせなどの情報を「事務局通信」として配信した。

URL : <http://3r-forum.jp/>

この製品は、古紙パルプ配合率 80 %の再生紙を使用しています。このマークは、3R 活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

